

松戸市立博物館年報

第30号 — 令和4年度 (2022)



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

令和4年度の当館の活動について、ご報告させていただきます。

まず、令和4年4月に渡辺尚志新館長が就任しました。渡辺館長は長年にわたって一橋大学に勤務し、日本近世史とくに村落史を研究してきました。現在の松戸市域にあった江戸時代の村々についても、論文や著書があります。渡辺館長には、専門である歴史学以外の分野でも、さまざまに尽力していただきたいと考えております。

次に展示ですが、当館では常設展示のほかに、企画展・館蔵資料展、博学連携展示などを行っています。春に館蔵資料展「イランの技とデザイン：奥井コレクション展」を開催しました。故・奥井俊美氏からご寄贈いただいた資料の一部を紹介しました。夏には、当館が所蔵している江戸時代の資料を紹介した館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」を行いました。秋には美術館準備室企画の美術展「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」を開催し、松戸ゆかりの美術品を紹介いたしました。冬に開催した企画展「こどもミュージアム」では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に取りながら、子どもも大人も松戸の歴史を楽しみながら学べる、多彩な体験展示を行いました。このほか小中学生から自由研究とイラスト作品を募った「第7回博物館アワード」の入賞作・優秀作品を展示する作品展を行いました。

資料の収集では松戸市観光協会様と鈴木千香枝様より、貴重な資料をご寄贈いただきました。ご厚意に感謝しますとともに、当館で保存し、市民の皆様に公開していきたいと思っております。

さて、令和4年度も「博物館友の会」をはじめ、多くの皆さまのご支援・ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。これからも市民から愛される博物館を目指して努力する所存でございますので、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和5年10月17日

松戸市立博物館

I	沿革	3
II	施設の概要	5
III	事業の概要	6
	1 常設展示	6
	(1) 総合展示	
	(2) 主題展示	
	(3) 野外展示	
	(4) 映像展示	
	2 資料・企画展示	9
	(1) 館蔵資料展「イランの技とデザイン：奥井コレクション展」	
	(2) 館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」	
	(3) 美術展「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」	
	(4) 企画展「こどもミュージアム」	
	3 学習支援	31
	(1) 講演会	
	(2) 講座	
	(3) 体験学習	
	(4) ミュージアムシアター・プレイルーム	
	(5) 館内公開	
	(6) ガイドツアー（常設展示解説）	
	(7) 情報提供	
	4 連携事業	40
	(1) 博学連携プログラム	
	①受入	
	②派遣	
	③事業	
	(2) その他	
	5 調査・研究	45
	(1) 研究員の活動	
	(2) 学芸員の活動	
	6 資料の収集と利用	48
	(1) 資料の収集	
	(2) 博物館資料の貸出	
	(3) 博物館資料の特別利用	
	(4) 資料の燻蒸等	
	7 令和4年度 資料展・企画展アンケート結果	51
	(1) 館蔵資料展「イランの技とデザイン：奥井コレクション展」	
	(2) 館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」	
	(3) 企画展「こどもミュージアム」	
	8 新型コロナウイルス感染症への対応	54
IV	組織と運営	55
	1 組織	
	2 歳出予算	
	3 事務事業	
	4 各種委員会等	
	5 博物館利用者の統計	
	6 来訪者	
V	条例・規則	60
	職員名簿	

I 沿 革

年 月	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50㎡)
昭和46年 4月	(助)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47㎡)
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330㎡)
昭和56年 3月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。
5月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定 松戸市美術館構想調査会発足[委員7名]
昭和58年 8月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和59年 4月	社会教育部内に美術館準備室設置
6月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足[委員10名]
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年 3月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和63年 9月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置[委員15名]
10月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足[委員10名]
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足[委員8名]
平成元年 3月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
4月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
8月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足[委員8名] 展示基本設計を(株)乃村工藝社に委託
12月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成2年 2月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
3月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
6月	展示実施設計を(株)乃村工藝社に委託
9月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成3年 9月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成4年 1月	外構工事着手
3月	植栽工事着手
4月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
6月	建築工事、外構工事竣工
7月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
9月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)
12月	野外展示工事竣工
平成5年 1月	展示工事竣工
3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
4月	松戸市立博物館開館 (4月29日) 初代岩崎卓也館長就任 開館記念展(期間:4月29日から6月13日まで)「松戸写真館—カメラがとらえた松戸の人々」を開催
10月	松戸市立博物館協議会発足[委員10名]

年 月	事 項
平成6年4月 6月 平成7年6月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管 館蔵「幸田貝塚出土品」266点 国重要文化財指定(28日付) 博物館登録 千葉県教育委員会 平成7年6月9日 登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 （ 歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足[委員5名]
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで) 「シルクロードとガンダーラ」展を開催
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を開催
平成20年3月 4月 10月	初代岩崎卓也館長退任 2代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称 松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで) 「縄文時代の東・西」展を開催
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手
平成23年3月 4月	東日本大震災発生(11日) 観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月 4月	2代関根孝夫館長退任 3代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月5日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」展を開催
平成26年12月	松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定(平成27年4月1日施行)
平成27年2月	『松戸市史 上巻(改訂版)原始・古代・中世』を刊行
平成30年4月	松戸市立博物館管理運営規則第5条の観覧料の免除等の(1)「大学生及び大学生以下の者を引率する者」を追加、(3)「身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」の市内要件を撤廃
平成30年9月	松戸市制施行75周年記念・松戸市立博物館開館25周年記念特別展示(期間:9月22日から11月25日まで)「ガンダーラ仏教文化の姿と形－」展を開催
平成31年3月	松戸市制施行75周年・松戸市立博物館開館25周年企画展示(期間:3月9日から3月24日まで)「日本の太鼓・世界の太鼓」展を開催。21世紀の森と広場に所在する21世紀の森と広場公園管理事務所、森のホール21、および当館による初の連携企画。
令和元年10月	消費税率引き上げに伴う観覧料改定
令和2年4月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(3月2日から3月31日まで)
令和4年3月	まつどデジタルミュージアム開設 3代望月幹夫館長退任 4代渡辺尚志館長就任
令和4年4月	組織改編により、松戸市教育委員会生涯学習部文化財保存活用課博物館となる。 松戸市立博物館管理運営規則一部改正

Ⅲ 事業の概要

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料(石器)の展示については、単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陸や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入ったころの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53村(新田村を含む)に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流鉄、東武野田線(いずれも現在の名称)が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地(下谷)、下総台地の開析谷周辺(谷津)、下総台地の平坦面(台)の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとりて先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近世前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと、また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前(江戸時代)から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ(獅子)が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演じ方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

(4) 映像展示

■ ビデオ映像

松戸市内に関わりのある映像ソフト7作品を製作して公開している。

- ①大地に埋もれた歴史
- ②町並み今昔物語
- ③富士講
- ④万作を語る
- ⑤三匹獅子舞～和名ヶ谷～
- ⑥三匹獅子舞～上本郷～
- ⑦三匹獅子舞～大橋～

2 資料・企画展示

(1) 館蔵資料展「イランの技とデザイン:奥井コレクション展」

◆展示意図

令和2年、故・奥井俊美氏が収集された資料を松戸市立博物館に寄贈いただいた。奥井氏のコレクションはイラン等で収集され、イスラーム陶器を中心に先史時代～近代に至るまで多様な時代の資料を含み、総数は313点にのぼる。本展覧会では初公開となる奥井コレクションの資料を通じて、各時代のイランを特徴づける製作技術やデザイン、それらの歴史的背景を紹介する。



◆主催 松戸市立博物館(企画担当 西村 広経<当館学芸員>)

◆会期 令和4年4月29日(金・祝)～6月12日(日)[38日間]

◆会場 松戸市立博物館企画展示室

◆後援 (公財)松戸市文化振興財団、日本西アジア考古学会

◆協力 駐日イラン・イスラム共和国イラン文化センター、新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社、北総鉄道株式会社

◆助成 (公財)花王芸術・科学財団美術展覧会等への助成に採択
助成額:30万円

◆観覧者数 4,057人

◆観覧料 無料

◆印刷物

①ポスター	B2判	300枚	
②チラシ	A4判	10,000枚	
③パンフレット	A4判	1,500部	展示会場において無料配布。会期中に配布終了。
④展示資料一覧	A4判	1,000部	館内印刷 展示会場で配布。
⑤こどもワークシート	A5判	700部	館内印刷 展示会場で配布。

◆関連企画

(1) 講演会

・「歴史を語る」1(会場:当館講堂)

演題 「9世紀から14世紀までのイラン製陶器の歴史—奥井コレクションのイスラーム陶器を読み解く」

対象者 一般

開催月日 令和4年5月7日(土)13時00分～15時00分

講師 神田 惟 氏(日本学術振興会特別研究員PD)

参加人数 49人

・学芸員講演会

演題 「奥井コレクションで学ぶ先史・古代のイラン」

対象者 一般

開催月日 令和4年5月21日(土)13時00分～15時00分

講師 西村 広経(当館学芸員)

参加人数 35人

(2) 関連ワークショップ

・「古代メソポタミアの宅急便」

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 ①令和4年5月3日(火・祝)
②令和4年5月8日(日)
③令和4年6月4日(土)
④令和4年6月5日(日)

内容 円筒印章・スタンプ印章を使って荷物を封印する方法を体験する。封印した荷物はスタッフがプレイルームに配達し、参加者が作成した粘土板と封印の印影を照合することで荷物を受け取ることができる。荷物の受け取りに成功すると缶バッジがもらえる。

会場 ①21世紀の森と広場(松戸こどもまつりに出展)
②～④森の工芸館(森のこども館と共催)

参加人数 229人(①97人 ②39人 ③37人 ④56人)

・「イスラーム陶器風紙皿ペイント」(会場:実習室)

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 ①令和4年5月4日(水・祝)10時00分～12時00分 13時30分～15時30分
②令和4年5月5日(木・祝)10時00分～12時00分 13時30分～15時30分
③令和4年6月11日(土) 10時00分～12時00分 13時30分～15時30分

内容 紙皿に釉下彩陶器を模した文様を着彩し、釉薬にみたてたニスを塗布する。作業を通じて陶器製作技術の特徴を学ぶ。

参加人数 26人(①7人 ②12人 ③7人)

・「ガラスビーズを作ろう」(会場:当館車庫)

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 ①5月22日(日)10時00分～12時00分 13時30分～15時30分
②6月12日(日)10時00分～12時00分 13時30分～15時30分

内容 古代のガラス玉製作技術を体験する。ガラス棒をガスバーナーで加熱・溶解し、芯巻法により玉を成形する。

参加人数 23人(①13人 ②10人)

I. いにしへの造形

No.	名称	国/地域	時代/年代	数量
1	壺	イラン	前5千年紀	1個
2	片口付鉢	イラン	前5千年紀	1個
3	土器片	イラン	前5千年紀	1個
4	円筒印章	西アジア	前23-前21世紀	1個
5	円筒印章	西アジア	前20-前18世紀	1個
6	円筒印章	西アジア	前19-前18世紀	1個
7	円筒印章	西アジア	前8-前6世紀	1個
8	円筒印章	西アジア	前8-前6世紀	1個
9	円筒印章	西アジア	前8-前6世紀	1個
10	円筒印章	西アジア	前8-前6世紀	1個
11	円筒印章	西アジア	前7-前6世紀	1個
12	円筒印章	西アジア	前7-前6世紀	1個
13	円筒印章	西アジア	前6-前4世紀	1個

14	スタンプ印章	西アジア	3-7世紀	1個
15	スタンプ印章	西アジア	3-7世紀	1個
16	スタンプ印章	西アジア	3-7世紀	1個
17	スタンプ印章	西アジア	3-7世紀	1個
18	壺	イラン	前3千年紀	1個
19	把手付広口壺	イラン	前3千年紀	1個
20	把手付壺	イラン	前3千年紀	1個
21	壺	イラン	前2千年紀	1個
22	把手付壺	イラン	前13-前9世紀	1個
23	把手付壺	イラン	前2千年紀	1個
24	把手付壺	イラン	前2千年紀	1個
25	把手付壺	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
26	壺	イラン	前2千年紀	1個
27	壺	西アジア	前2千年紀-前1千年紀	1個
28	把手付鉢	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
29	把手付注口土器	イラン	前13-前9世紀	1個
30	動物形象土器	イラン	前9-前8世紀	1個
31	把手付壺	イラン	前1千年紀	1個
32	台付鉢	イラン	前1千年紀	1個
33	リュトン	イラン	前1-後2世紀	1個
34	斧	イラン	前3千年紀	1個
35	短剣	イラン	前2千年紀	1個
36	短剣	イラン	前13-前9世紀	1個
37	矛	イラン	前13-前9世紀	1個
38	アングレット	イラン	前13-前9世紀	4個
39	ブレスレット	イラン	前13-前9世紀	2個
40	ピン	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
41	ピン	イラン	前9-前8世紀	2個
42	スタンダード (部品)	イラン	前9-前8世紀前半	1個
43	青銅製金具	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
44	人物形垂飾	イラン	前1千年紀	2個
45	壺	イラン	前1千年紀	1個
46	動物像/垂飾	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
47	動物像	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
48	動物像/垂飾	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
49	動物像/垂飾	イラン	前2千年紀-前1千年紀	1個
50	ガラス玉	西アジア	前1千年紀以降	21個
51	玉 (首飾)	西アジア	前1千年紀以降	1連
52	垂飾	イラン	前1千年紀以降	2個
53	ペンダント	西アジア	不明	1個
54	指輪	イラン	不明	1個
55	指輪	イラン	不明	1個
56	女性像	イラン	前2千年紀	2個

57	女性像	イラン	前2-後3世紀	1個
58	壺	イラン	1-7世紀	1個
59	切子壺	イラン	3-9世紀	2個
60	長頸壺	イラン	1-5世紀	1個
61	切子ガラス壺	イラン	3-7世紀	1個
62	水差	イラン	3-10世紀	1個
63	双耳壺	イラン	1-7世紀	1個

II. イスラームの多彩なデザイン

No.	名称	国/地域	時代/年代	数量
64	多彩釉刻線文鉢	イラン	9-10世紀	1個
65	多彩釉刻線文鉢	イラン	9-10世紀	1個
66	多彩釉刻線文鉢	イラン	9-10世紀	1個
67	透明釉下スリップ彩植物文鉢	イランまたはウズベキスタン	10-11世紀	1個
68	透明釉下スリップ彩鳥文鉢	イラン	9-10世紀	1個
69	透明釉下スリップ彩鉢	イラン	9-10世紀	1個
70	透明釉下スリップ彩鉢	イラン	9-10世紀	1個
71	透明釉下スリップ彩盤	イラン	9-10世紀	1個
72	透明釉下スリップ彩倣文字文鉢	イラン	9-10世紀	1個
73	透明釉下スリップ彩鉢	イラン	9-10世紀	1個
74	透明釉下スリップ彩倣字文鉢	イラン	9-10世紀	1個
75	透明釉下スリップ彩鉢 (サリー陶器)	イラン	10-11世紀	1個
76	透明釉下スリップ彩鉢/バフウエア	イラン	9-10世紀	1個
77	透明釉下スリップ彩鉢/バフウエア	イラン	9-10世紀	1個
78	透明釉下スリップ彩鉢/バフウエア	イラン	9-10世紀	1個
79	透明釉下スリップ彩鉢/バフウエア	イラン	9-10世紀	1個
80	透明釉下スリップ彩鉢/バフウエア	イラン	9-10世紀	1個
81	緑釉下刻線文鉢	イラン	11-12世紀	1個
82	緑釉下刻線文鉢	イラン	11-12世紀	1個
83	緑釉ランプ	イラン	8-9世紀	1個
84	白釉上緑彩倣文字文鉢	イラン	9-10世紀	1個
85	角瓶	イラン	7-11世紀	3個
86	瓶	イラン	7-11世紀	1個
87	瓶	イラン	7-11世紀	1個
88	脚付瓶	イラン	7-11世紀	1個
89	瓶	イラン	7-11世紀	1個
90	瓶	イラン	7-11世紀	1個
91	瓶	イラン	7-11世紀	1個
92	瓶	イラン	12世紀	1個
93	壺	イラン	7-11世紀	1個
94	壺	イラン	7-11世紀	1個
95	注口付ガラス容器 (医療器具?)	イラン	10-12世紀	1個

III. 技術革新とターコイズブルー

No.	名称	国／地域	時代／年代	数量
96	青緑釉下穿孔・刻線文鉢	イラン	12世紀後半--13世紀前半	1個
97	青緑釉下穿孔・刻線文鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
98	青緑釉鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
99	青緑釉下彫刻・刻線文鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
100	青緑釉鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
101	青緑釉壺	イラン	12世紀後半-14世紀前半	1個
102	透明釉中藍彩穿孔・刻線文鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
103	透明釉中藍彩刻線文鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
104	透明釉中藍彩鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
105	白濁藍釉鉢	イラン	13世紀前半	1個
106	藍釉鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
107	藍釉把手付壺	イラン	12世紀後半-14世紀前半	1個
108	青緑釉下型押・貼付鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
109	青緑釉下型押把手付水差	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
110	青緑釉下彫刻・刻線文皿	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
111	青緑釉ランプ	イラン	12世紀後半-14世紀前半	3個
112	青緑釉ランプ	イラン	12世紀後半-14世紀前半	1個
113	青緑釉動物像付十連ランプ	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
114	透明釉下彫刻・刻線文鉢	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
115	青緑釉下黒彩把手付壺	イラン	13世紀前半	1個
116	青緑釉下黒彩把手付壺	イラン	13世紀前半	1個
117	銘文入青緑釉下藍黒彩瓶	イラン	13世紀前半	1個
118	透明釉下藍黒彩植物文鉢	イラン	13世紀前半	1個
119	透明釉下藍黒彩植物文鉢	イラン	13世紀前半	1個
120	白釉上ラスター彩把手付壺	イラン	12世紀後半	1個
121	ラスター彩・釉中彩タイル	イラン	13世紀後半	2個
122	白釉上エナメル彩鉢(ミーナーイー陶器)	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個
123	白釉上エナメル彩鉢(ミーナーイー陶器)	イラン	12世紀後半-13世紀前半	1個

IV. モンゴル・インパクト

No.	名称	国／地域	時代／年代	数量
124	青緑釉鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
125	青緑釉鉢	イラン	13世紀-14世紀前半	1個
126	青緑釉鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
127	青緑釉鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
128	青緑釉下藍黒彩彫刻・刻線文鉢	イラン	13世紀後半-15世紀	1個
129	透明釉下灰地白盛上スリッパ彩盤	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
130	透明釉下灰地白盛上スリッパ彩盤	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
131	透明釉下灰地白盛上スリッパ彩鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
132	透明釉下灰地白盛上スリッパ彩台付鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
133	透明釉下灰地白盛上スリッパ彩鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
134	透明釉下多彩組紐文鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個
135	透明釉下多彩倣文字文鉢	イラン	13世紀後半-14世紀前半	1個

(2) 館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」

◆展示意図

江戸時代、現在の松戸市域には60近くの村があった。村は名主・組頭・百姓代の三役人が運営していた。領主から村への命令・通達、村から領主への要求は文書で行われたため、一般の農民にも読み書き能力が必要であった。納税から借金・離婚・喧嘩仲裁の文書、村と村の争いでは絵図も作成され、保存された。これらは地域資料として現在まで残っている。本展示では主に秋山村(現、松戸市秋山)と大谷口村(現、松戸市大谷口)の古文書・絵図・印刷物などから江戸時代の人々がどのような生活を送っていたのかを探った。



◆主催 松戸市立博物館(企画担当 富澤 達三<当館学芸員>)

◆会期 令和4年7月16日(土)～8月28日(日)[37日間]

◆会場 松戸市立博物館企画展示室

◆後援 (公財)松戸市文化振興財団、

◆協力 新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社、北総鉄道株式会社

◆観覧者数 2,609人

◆観覧料 無料

◆印刷物 ①ポスター B 2判 300枚
②チラシ A 4判 10,000枚
③展示資料一覧 A 4判 1,000部 (館内で印刷 展示会場で配布)

◆関連企画

・学芸員講演会「古文書から探る松戸の江戸時代」(共催：博物館友の会/会場：当館講堂)

対象者 一般

開催月日 令和4年7月31日(土) 13時00分～15時00分

講師 富澤 達三(当館学芸員)

参加人数 66人

・歴史を語る2「近世松戸と鮮魚街道～銚子から日本橋への道」(会場：当館講堂)

対象者 一般

開催月日 令和4年8月6日(土) 13時00分～15時00分

講師 出口 宏幸氏(江東区文化財主任専門員)

参加人数 49人

◆展示資料

No.	資料名	年代	大きさ(タテ×ヨコcm)
1	丑御年貢可納割附之事	慶応元年(1865)10月	33×101
2	宗門人別帳	天保8年(1837)2月	25×17.5
3	宗門人別帳	天保13年(1842)2月	25×17.5
4	宗門人別帳	弘化2年(1845)3月	25×17.5
5	宗門人別帳	弘化3年(1846)3月	25×17.5
6	宗門人別帳	嘉永5年(1852)3月	25×17.5
7	宗門人別帳	嘉永元年(1848)3月	25×17.5
8	人別送り一札之事	文久元年(1861)11月	33.5×48
9	五人組御仕置帳	文化15年(1818)3月	24×18(縦帳)
10	五人組御仕置帳	文政13年(1830)2月	25×18(縦帳)
11	五人組帳	安政7年(1860)3月	25×17(縦帳)
12	五人組帳	万延2年(1861)3月	25×17(縦帳)
13	覚	未年8月	19×75
14	其節少茂御恨申上間敷候	延享4年(1747)9月	部分展示
15	御用留	安政5年(1858)正月	34×13(横帳)
16	御用留	安政2年(1855)正月	34×14(横帳)
17	御用留	安政4年(1857)正月	35×13(横帳)
18	御用留	安政3年(1856)正月	35×14(横帳)
19	御用留	安政6年(1859)正月	35×13(横帳)
20	御用留	安政7年(1860)正月	35×14(横帳)
21	農間商渡世者名前取調帳	天保12年(1841)7月	17×25(縦帳)
22	農間商渡世之者名前取調帳	天保12年(1841)7月	25×17.5(縦帳)
23	去ル状之事	丑年2月7日	25×19.5
24	奉公人請状之事	嘉永6年(1853)12月	34×48
25	質物ニ相渡申山証文之事	文政11年(1828)4月	33×75
26	借用申金子証文之事	文久元年(1861)3月	33×50
27	以書附奉願上候	享保12年(1727)3月	27.5×23.7
28	覚	文久3年(1863)4月	25×21
29	乍恐以書付御訴奉申上候	寛政2年(1790)正月	24.5×33.5
30	冥加金三十両上納 名字帯刀御免状	弘化3年(1846)10月	33.5×86(包紙31.5×40.5)
31	覚	文化7年(1810)4月	32×40
32	小金一月寺合印	卯年6月11日	33×6.5(包紙開24×17)
33	下総国松戸宿絵図面	(近代カ)	39×55.5
34	松戸宿町並絵図	江戸時代	77×205
35	松戸村絵図	江戸時代	130×125
36	小金牧絵図(複製)	江戸時代	187×104(本紙120×82)
37	乍恐以書付奉申上候	安政6(1858)年3月	25×33
38	覚	(江戸時代)卯年10月25日	24.5×25
39	奉差上御請書之事	文久3年(1863)2月	33×53
40	覚	文化10年(1813)閏11月	28×34
41	覚	寛政7年(1795)2月	24.5×27
42	口演	(江戸時代)申10月	16.5×55

No.	資料名	年代	大きさ(タテ×ヨコcm)
43	信心日割帳	安政5年(1858)8月	34×12 横帳
44	急廻状 覚	卯(安政2=1855)10月10日	24×50.5(本文16.8×35、包紙16×24)
45	見分書	文政5年(1822)8月13日	25×100
46	御瘡瘡神御仕方之事	江戸時代	35×26
47	大風二付潰家取調書上帳	安政3年(1856)9月	24.5×17
48	①慶國寺護符・②中山法華経寺・③武蔵国氷川神社護符・④三峰山護符	江戸時代	①34.5×12、②37.5×11、③41×12.5、④30.5×5.5
49	伊勢参宮道中記	(江戸時代)辰正月7日～2月26日	12×29
50	近江国むかで山ゆらい	江戸時代	16×56.5
51	ペルリ来航諸侯警備持場の図	江戸時代	41.5×61.5
52	富士三十六景 鴻之台とね川(歌川広重)	安政5年(1858)	35×24
53	高城下野家記	江戸時代	24×16.5
54	高城家由来書 総州大谷口城主高城氏伝	江戸時代	24.5×15.5

(3) 美術展「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」

◆展示意図

前回展(令和2年開催)と同じく所蔵作品展を行ったが、今展では二部構成とし、前半の「松戸に住んだ作家」のセクションでは、板倉鼎、板倉須美子、長田国夫、奥山儀八郎の4名の作家を紹介した。ここでは各々の小規模な回顧展のような展示とし、それぞれの活動を概観できる内容とした。後半、千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)のセクションでは、インテリアとグラフィックデザイン(大橋正)にジャンルを絞り、インテリアについては大正期の洋家具啓蒙から戦後日本のモダンデザインの勃興までを辿り、グラフィックデザインのコーナーでは大橋正のキャリアを紹介する内容とした。



所蔵品展でも様々な切り口で展開できるという、本市の美術コレクションの層の厚さ、多様性を示した。

◆主催 松戸市教育委員会
(企画担当 小川 玲美子、田中 典子〈文化財保存活用課美術館準備室学芸員〉)

◆後援 JOBANアートライン協議会

◆助成 自治総合センター、公益財団法人朝日新聞文化財団

◆協力 新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社

◆会期 令和4年9月23日(金・祝)～11月6日(日)[38日間]

◆会場 松戸市立博物館企画展示室

◆観覧者数 2,922人

◆観覧料 一般310円(企画・常設展共通520円)高大生150円(企画・常設展共通250円)、
中学生以下無料

◆出品点数 全141点※参考資料含む

◆印刷物 (デザイン:SHIMA ART&DESIGN STUDIO)

(1)リーフレット 3,000部

(2)ポスターB2判 200枚

(3)ポスターB3判 1,000枚

(4)チラシA4判 7,000枚

(5)ポスターA3判 3,100枚

(6)観覧券 4,700枚

◆関連企画

(1) 松戸の作家の紹介講座 岩澤 哲野氏演出朗読劇「libido:板倉鼎／須美子」

内 容 松戸市出身の演出家・岩澤 哲野氏が代表を務める theater apartment complex libido: が、板倉鼎・須美子の生涯をテーマとした朗読劇を上演した。

対 象 者 一般

上演月日 令和4年9月24日(土)(12時～、17時～)

9月25日(日)(12時～、17時～)全4ステージ

会 場 森のホール21(松戸市文化会館)地下1階 森のスタジオ

参加人数 139人

(2) 奥山儀八郎の版画にチャレンジ(会場:実習室)

内 容 奥山儀八郎の出品作品を参照しながら版画の表現技法を体験するワークショップを開催した。

対 象 者 松戸市在住の小学校4～6年生を含めた家族

開催月日 令和4年10月9日(日)9時～12時 13時～16時

講 師 泉 晴行(社会教育課学習支援専門員)

参加人数 午前の回(9時～12時)2家族6人
午後の回(13時～16時)1家族3人

(3) 板倉鼎模写展(会場:企画展示室前ロビー)

内 容 本展出品作家である板倉鼎の作品を市内中学校美術部生徒に模写してもらい、その作品を会場付近のロビーに展示した。

会期月日 令和4年10月18日(火)～11月6日(日)

参加学校・人数

松戸市立第一中学校 11人(1～2年生) 担当教諭:住石哲基先生

松戸市立第五中学校 12人(1～2年生) 担当教諭:土田伸哉先生

(4) フロアレクチャー(会場:企画展示室)

内 容 展示作品について担当学芸員が解説した。

対 象 者 一般

開催月日 令和4年10月22日(土)14時～15時

講 師 小川 玲美子・田中 典子

参加人数 6人

(5) その他

・パッケージデザインやってみよう!

出品作品である大橋正デザインのパッケージ原画に関連し、お菓子のシールなどを用いて自由にパッケージを作れるコーナーを企画展示室前ロビーに設置した。

・まちがい探しにチャレンジ!

作品画像の一部を改変したワークシートと展示作品を見比べ、間違っている部分を探すクイズを開催した。

・みんなのたからもの

文化財保存活用課のツイッターアカウントに、参加者にとっての様々な「たからもの」の画像と、そのモノの特徴、なぜたからものなのかを投稿してもらった。また、投稿は展示室付近のロビーにも掲示した。

◆展示資料

■前期のみ展示(9月23日～10月16日) ▼後期のみ展示(10月18日～11月6日)

No.	タイトル	作者	制作年	材質・技法/備考
1	苺	板倉鼎	1918年	紙、水彩
2	水辺の風景(坂川)	板倉鼎	1920年頃	キャンバス、油彩
3	カーネーションとガーベラ	板倉鼎	1920年頃か	キャンバス、油彩
4	薄日の午後的大海	板倉鼎	1921年3月16日	板、油彩
5	温室	板倉鼎	1921年	キャンバス、油彩
6	小女の顔	板倉鼎	1922年	板、油彩
7	小女と子猫	板倉鼎	1923年	キャンバス、油彩
8	鳥影	板倉鼎	1924年	キャンバス、油彩
9	岬	板倉鼎	1925年	板、油彩
10	風景	板倉鼎	1926年	キャンバス、油彩
11	書簡 ホノルルの生活について	板倉須美子	1926年3月1日	松戸、板倉家宛
12	書簡 パリで学ぶ喜び	板倉須美子	1926年8月25日	松戸、板倉家宛
13	野菜	板倉鼎	1927年頃	キャンバス、油彩
14	書簡 明日の日への真夜中に立つ	板倉鼎	1927年7月8日	松戸、板倉家宛
15	静物	板倉鼎	1927年	キャンバス、油彩
16	白いシャツの須美子	板倉鼎	1927年頃	キャンバス、油彩

No.	タイトル	作者	制作年	材質・技法／備考
17	白いシャツの須美子(エスキース)	板倉鼎	1927年頃	紙、ペン
18	鼎と須美子	板倉鼎		紙、ペン
19	書簡 須美子が油絵を始めたこと	板倉鼎	1927年9月6日	松戸、板倉家宛
20	パレット		1926年	木 板倉鼎遺品
21	パレット		1927年	木 板倉須美子遺品
22	金魚と花	板倉鼎	1927年頃	キャンバス、油彩
23	書簡 鼎が金魚を描いていること	板倉須美子	1927年11月16日	松戸、板倉家宛
24	アルクアン・シエル(虹) ベル・ホノルル5	板倉須美子	1927年～1928年頃	紙、ペン、水彩
25	ベル・ホノルル13	板倉須美子	1927年～1928年頃	キャンバス、油彩
26	ベル・ホノルル17	板倉須美子	1927年～1928年頃	キャンバス、油彩
27	タンジョウ	板倉鼎	1927年頃か	紙、ペン、水彩
■28	一を抱く須美子	板倉鼎	1928年頃	紙、ペン、水彩
29	一坊	板倉鼎	1928年頃	板、油彩
▼30	一坊 六ヶ月	板倉鼎	1928年頃	紙、水彩
31	籠の花	板倉鼎	1928年6月頃	キャンバス、油彩
32	黒椅子による女	板倉鼎	1928年	キャンバス、油彩
33	黒椅子による女(エスキース)	板倉鼎	1928年8月上旬	紙、水彩
■34	黒椅子による女(エスキース)	板倉鼎	1928年頃	紙、ペン、水彩
▼35	一坊万ザイの図	板倉鼎	1928年12月27日	紙、ペン
36	赤衣の女(白椅子)	板倉鼎	1928年～1929年頃	紙、ペン、水彩
37	赤衣の女	板倉鼎	1929年	キャンバス、油彩
■38	ベル・ホノルル(エスキース)	板倉須美子	1929年頃	紙、ペン、水彩
39	仏蘭西日本美術家協会展(パリ1回展)解説冊子		1929年	
40	書簡 一の成長	板倉須美子	1929年4月26日	松戸、板倉家宛
▼41	ヨット等風景4図	板倉須美子		紙、ペン、水彩
42	ベル・ホノルル26	板倉須美子	1928年～1929年頃	キャンバス、油彩
43	風景	板倉(昇)須美子		キャンバス、油彩
44	書簡 《休む赤衣の女》の思い出	昇須美子	1931年7月5日	松戸、板倉家宛
45	自画像	長田国夫		キャンバス、油彩
46	呉風景	長田国夫		キャンバス、油彩
47	風景	長田国夫		紙、油彩
48	二人連れ(後ろ姿)	長田国夫		紙、油彩、鉛筆
49	肖像	長田国夫		紙、油彩
50	寝顔	長田国夫		紙、油彩
51	自画像	長田国夫		紙、水彩、鉛筆
52	自画像(髭)	長田国夫		厚紙、油彩
53	坂道のある風景	長田国夫		紙、油彩
54	赤い帽子	長田国夫	1976年	板、油彩
55	建物	長田国夫	1976年	板、油彩
56	野草	長田国夫	1976年～1977年	紙、油彩
57	裏窓風景	長田国夫	1978年～1980年	板、油彩
58	難民	長田国夫	1978年～1981年	板、油彩
59	来迎図	長田国夫	1983年	板、油彩
60	合掌童女	奥山儀八郎	1928年頃	紙、木版(墨摺)
61	純毛メリヤス ニッケ	奥山儀八郎	1930年頃か	紙、鉛筆、水彩、墨
62	贈答 背広服地 毛布 メリヤス ニッケ	奥山儀八郎	1930年頃か	紙、鉛筆、水彩、コラージュ

No.	タイトル	作者	制作年	材質・技法／備考
63	贈答 背広服地 毛布 メリヤス ニッケ	奥山儀八郎	1930年頃か	紙、印刷
64	丸ビル角 ニッケ	奥山儀八郎	1931年頃	紙、印刷
65	ニッケ開店3周年	奥山儀八郎	1931年	紙、リノリウム版 (2色摺)
66	ニッケ毛製品	奥山儀八郎	1931年頃	紙、リノリウム版 (2色摺)
67	宣伝広告スクラップ ニッケ	奥山儀八郎	昭和初期	版画、印刷物、 写真プリント
	宣伝広告スクラップ ニッケ スライ ドショー	奥山儀八郎	昭和初期	46コマ 3分50秒
68	奥山儀八郎作品集 丸ビルニッケ	奥山儀八郎		版画、印刷物
69	珈琲豆読本	奥山儀八郎		紙、木版(墨摺)、 インク
70	文化元年魯船入津図 『黒船』16-1表紙	奥山儀八郎	1939年1月	紙、木版機械印刷
71	吉田松陰 『黒船』18-8表紙	奥山儀八郎	1940年 初冬(1941年8 月発行)	紙、木版機械印刷
72	谷中村河童画房	奥山儀八郎	1942年	紙、木版(多色摺)
73	和倉渡月橋より御便殿を拝す 能登新 七尾八景	奥山儀八郎	1943年	紙、木版(多色摺)
74	和倉にて	奥山儀八郎	1943年以降	紙、木版(多色摺) カード
75	団扇絵帖 第一輯	奥山儀八郎	1940年以降	紙、合羽版
	団扇絵帖 第一輯 スライドショー	奥山儀八郎		68コマ 3分24秒
76	X'MAS CARDS	奥山儀八郎	1947年～1948年頃	紙、木版(2色摺) ポスター
77	CHRISTMAS GREETINGS(市川鰻蔵 の竹村定之進、パロディー)	奥山儀八郎		紙、木版(多色摺)、 鉛筆
78	Season's Greetings(市川鰻蔵の竹村定 之進)	奥山儀八郎		紙、水彩 クリスマス カード原画
79	市川鰻蔵の竹村定之進(パロディー)	奥山儀八郎		紙、木版(多色摺) クリス マスカード
80	大原女 順序摺	奥山儀八郎		紙、木口木版
	大原女 順序摺 スライドショー	奥山儀八郎		27コマ 53秒
81	Greetings from Japan(大原女)	奥山儀八郎		紙、木版(多色摺) クリ スマスカード
82	Season's Greetings(大原女)	奥山儀八郎		紙、水彩 クリスマス カード原画
83	暁の河口湖 富士連作の一	奥山儀八郎	1948年	紙、木版(多色摺)
84	暁の河口湖	奥山儀八郎	1948年	紙、木版(多色摺) カード
85	吉川時計店	奥山儀八郎 (彫:奥山義人、摺: 奥山義人)	1954年	紙、木版(多色摺) マッ チラベル
86	アケマシテ オメデトウ 吉川時計店	奥山儀八郎 (彫:奥山義人)	1955年頃	紙、印刷 年賀状
87	長崎料理 赤坂山王	奥山儀八郎		紙、木版(多色摺) マッ チラベル
88	Nagasaki Style Cooking Sanno	奥山儀八郎 (彫:奥山義人)		紙、木版(2色摺) マッ チラベル
89	舶来居酒屋いそむら	奥山儀八郎 (彫:奥山儀八郎)		紙、木版(多色摺) マッ チラベル

No.	タイトル	作者	制作年	材質・技法／備考
90	NIKKA WHISKY GOLD LABEL	奥山儀八郎	1955 年 頃	紙、木版(墨摺) 外箱原画
91	版研工房 おくやま ぎはちろ	奥山儀八郎	1954 年 以降か	木、カシュー(合成樹脂塗料) 看板
92	【参考出品】アリスティド・ブリュアン、彼のキャバレにて	アンリ・ド・トゥールーズ-ロートレック	1893 年 頃	紙、リトグラフ ポスター
93	ブリュアン像	奥山儀八郎	1956 年	紙、木版(多色摺)
94	NIKKA WHISKY	奥山儀八郎	1958 年 頃	紙、印刷 ポスター
95	『ロートレック』	式場隆三郎著、奥山儀八郎装幀	1959 年 10月 発行	日本書房 書籍
96	野菊の墓	奥山儀八郎		紙、印刷 包装紙
97	矢切の写真屋 かもした	奥山儀八郎		紙、印刷 紙袋
98	Coffee Mocha 改装OPEN予定2月末日	奥山儀八郎	1971 年	紙、木版(2色摺)
99	珈琲もか 自家焙煎	奥山儀八郎		紙、印刷 マッチ箱
100	やされの渡し(矢切の渡し)	奥山儀八郎	1976 年	紙、木版(墨摺)
101	月山 寒河江川から	奥山儀八郎	1978 年	紙、木版(墨摺)
102	矢切土橋	奥山儀八郎	1978 年	紙、木版(墨摺)
103	柴又	奥山儀八郎		紙、木版(墨摺)
104	珈琲館	奥山儀八郎	1979 年	木(橡) 看板
105	奥津風景	松岡壽	1908 年	板、油彩
106	雪の高等工芸正門	和田香苗	1933 年	キャンバス、油彩
107	傘立て	木材工芸学会	1923 年	木、鉄
108	子供室机	木檜恕一	1924 年	木
109	角型花台	森谷延雄	1925 年	木
110	鏡面付箆筒	東京高等工芸学校 生徒か		昭和初期頃 木、鏡
111	食器棚	東京高等工芸学校 生徒か		昭和初期頃 木
112	肘掛椅子	型而工房	1930 年 頃	ナラ、杉、力裂
113	洋服箆筒	型而工房	1930 年 頃	木、真鍮
114	国民家具箆筒	工芸指導所(剣持勇)	1943 年	ナラ、合板
115	サイドチェアーFRP-0101	産業工芸試験所	1963 年 頃	FRP、鉄
116	鉄製スタッキングスツール	産業工芸試験所	1955 年 頃	鉄、ビニール
117	安楽椅子OM5049	剣持勇デザイン研究所	1967 年 (デザイン)	ケヤキ
118	テーブルOM2015	剣持勇デザイン研究所	1967 年 (デザイン)	ケヤキ
119	籃胎漆器(深鉢)	剣持勇デザイン研究所	1958 年	竹、漆
120	籃胎漆器(筒)	剣持勇デザイン研究所	1958 年	竹、漆
121	籃胎漆器(盆ざる)	剣持勇デザイン研究所	1958 年	竹、漆
■122	NIPPON	大橋正	1937 年	紙、ポスターカラー ポスター
▼123	大原女	大橋正	1937 年 頃	紙、ポスターカラー ポスター
124	勝ち抜く為に われらの勤労われらの貯蓄	大橋正	1942 年	紙、凸版 ポスター

No.	タイトル	作者	制作年	材質・技法／備考
125	明治チョコレート	大橋正	1955年～1956年頃	紙、シルクスクリーン ポスター
126	Meiji 明治チョコレート・明治キャラメル・明治ガム	大橋正	1961年頃	紙、シルクスクリーン ポスター
127	Meiji 明治チョコレート・明治キャラメル・明治ガム	大橋正	1961年	紙、シルクスクリーン ポスター
128	PURE AND NATURAL	大橋正	1975年頃	紙、オフセット ポスター
129	PURE AND NATURAL	大橋正	1970年代	紙、オフセット ポスター
130	PURE AND NATURAL	大橋正	1970年代	紙、オフセット ポスター
131	魚と月	大橋正	1967年頃	紙、シルクスクリーン
132	クリアファイル「大丸時代5-13-1」	大橋正	1938年～1939年頃	紙、印刷
133	クリアファイル『スイート』カバーデザイン等	大橋正	1954年～1961年頃	紙、印刷
134	パッケージ原画(明治ミルクキャラメル)	大橋正		紙、ガッシュ、鉛筆
135	パッケージ原画(さくら高級マット水彩)	大橋正	1950～1960年代	紙、ガッシュ、鉛筆
136	パッケージ原画(さくらデザインクレパス)	大橋正	1950～1960年代	紙、ガッシュ、鉛筆
137	キッコーマンスクラップブック「72C-73A」	大橋正	1972年8月～1973年3月	紙、印刷
参考	東京高等工芸学校一覧		1935～1942年	紙、印刷
参考	東京工業専門学校要覧		1946年	紙、印刷
参考	リキスツール	渡辺力	1965年(デザイン)	ダンボール 個人蔵
参考	リキクロック	渡辺力	2003年(デザイン)	木 個人蔵

(4) 企画展「こどもミュージアム」

◆展示意図

子どももおとなも、松戸の歴史を楽しく学べることを意図して開催した。この展覧会では、実物資料に触れたり、様々な歴史体験をすることで、松戸の歴史に興味を持ってもらうとともに、子どもたちの自発的な学ぶ意欲と力を育てることを目的とした。さらに「こどもミュージアム」の開催に対して、「松戸市立博物館友の会」「森のこども館」(NPO法人 松戸子育てさぽーとハーモニー)の協力を得て多彩なイベントを開催し、多くの市民の方々が集える展覧会とした。



◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木 俊也、西村 広経、藤原 哲、林 幸太郎<当館学芸員>)

◆会期 令和5年1月5日(土)～3月26日(日)[70日間]

◆会場 博物館企画展示室・ワークショップサテライト会場

◆観覧者数 7,521人
市内小学校17校見学

◆観覧料 無料

◆印刷物 ①チラシ A4版 50,000枚

②ポスター B2版 650枚

ポスター B3版 410枚

③ワークシート(探検手帳) 10,000枚

100年前からのくらしのうつりかわりゾーン

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
農家のくらし	農家の住まい	1	実物展示	農家模型 (1/20)	
		2	実物展示	農家の間取り模型 (1/20)	
	食べる／かまど	3	実物展示	かまど(模型1/1)	
		4	実物展示	かまど(鋳物)	
	食べる／ご飯をたく	5	実物展示	火吹き竹	
		6	実物展示	渋うちわ	
		7	実物展示	まき	
		8	実物展示	十能	
		9	実物展示	火挟み	
		10	実物展示	火かき棒	
		11	実物展示	火消し壺	
		12	実物展示	七輪	
		13	実物展示	七輪	
		14	実物展示	焼き網	
	15	実物展示	鉄鍋		
	16	実物展示	杓子		
	17	実物展示	鉄瓶		
	18	実物展示	羽釜		
	19	実物展示	羽釜		
	20	実物展示	せいろ		
	21	実物展示	米櫃		
	22	実物展示	一升杓		

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
		23	実物展示	五合杓	
		24	実物展示	飯櫃	
		25	実物展示	飯櫃入れ	
		26	実物展示	米研ぎ桶	
		27	実物展示	あげざる	
		28	実物展示	杓文字(小)	
	食べる／おかずを煮炊きする	29	実物展示	杓文字掛け	
		30	実物展示	おろし金(金属製)	
		31	実物展示	おろし金(陶製)	
		32	実物展示	あげざる(うどん・そば)	
		33	実物展示	焙烙	
		34	実物展示	すり鉢	
		35	実物展示	すりこ木	
		36	実物展示	かつお節削り	
		37	実物展示	脚付きまな板	
		38	実物展示	酒徳利	
		39	実物展示	醤油徳利	
	食べる／食卓	40	実物展示	普段のお膳	
		41	実物展示	ちゃぶ台	
	食べる／水まわりのくらし	42	実物展示	井戸車模型	
		43	実物展示	井戸車	
		44	実物展示	釣瓶桶	
		45	実物展示	手押しポンプ	
		46	実物展示	流し台	
		47	実物展示	洗い桶	
		48	実物展示	水甕	
		49	実物展示	手桶	
		50	実物展示	柄杓	
	食べる／食べ物の保存	51	実物展示	蠅帳	
		52	実物展示	甕(梅干し用)	
		53	実物展示	漬け物樽(小)	
	着る／着物って、どんなもの？	54	実物展示	男の袴の着物と羽織	
		55	実物展示	女の袴の着物と羽織	
		56	実物展示	男子の袴の着物と羽織	
		57	実物展示	木綿の着物の素材(綿花・木綿糸・紬糸・木綿布)	
		58	実物展示	麻の着物の素材(麻・麻糸・麻布)	
		59	実物展示	絹の着物の素材(繭・真綿・絹糸・絹布・紬糸・紬布)	
		60	実物展示	針箱	
		61	実物展示	くけ台	
		62	実物展示	尺差し	
		63	実物展示	裁ち板	

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
	着る／洗濯	64	実物展示	たらい	
		65	実物展示	洗濯板	
		66	実物展示	洗濯石鹸	
		67	実物展示	鍬	
		68	実物展示	火のし	
		69	実物展示	炭火アイロン	
	くらす／冬のくらし	70	実物展示	火鉢（木製火鉢・五徳）	
		71	実物展示	火箸	
		72	実物展示	灰ならし	
		73	実物展示	鉄瓶	
		74	実物展示	炭おこし	
		75	実物展示	十能（炭運び）	
		76	実物展示	炭入れ	
		77	実物展示	やぐら炬燵	
		78	実物展示	行火	
		79	実物展示	湯たんぽ（陶製）	
		80	実物展示	湯たんぽ（ブリキ製）	
	くらす／夏のくらし	81	実物展示	蚊やり豚	
		82	実物展示	うちわ	
		83	実物展示	すだれ屏風	
くらす／蓄音機とラジオ	84	実物展示	蓄音機		
	85	実物展示	ラジオ		
つかってみよう！ 昔の道具	はかる／昔の単位で 身長をはかってみよう！	86	体験展示	身長計	「尺」と「cm」の目盛りを取り付けた身長計を制作
		87	体験展示	足型と文銭の足あとシート	「文」と「cm」で表した様々な大きさの足型を床に貼り、自分の足の大きさを測る体験展示
	はかる／昔の道具で 長さや重さをはかってみよう！	88	体験展示	曲尺	
		89	体験展示	尺差し	
		90	体験展示	箆笥	
		91	体験展示	バネ秤	「貫」と「匁」の解説
	はかる／小豆の量を はかってみよう！	92	体験展示	台秤	
		93	体験展示	小豆	
		94	体験展示	枡（体験用／一合・五合・一升）	
	はこぶ／昔の道具で はこんでみよう！	95	体験展示	一斗枡と斗かき	
96		体験展示	天秤棒と水桶		
97		体験展示	背負い籠		
98		体験展示	風呂敷		

コーナー名称	No	資料名称
松戸のうつりかわりを写真で見よう！	99	幸田第一公園(1987年/2019年)
	100	新松戸駅(旧国鉄/J R)(1973年/2019年)
	101	小金城址駅(流鉄流山線)(1967年/2019年)
	102	旭町 坂川端の石造物(1986年/2019年)
	103	馬橋駅(流鉄流山線)(1954年/2019年)
	104	馬橋駅(旧国鉄/J R)(1968年/2019年)
	105	北松戸競輪場前踏切/北松戸競輪場前歩行者用の橋(旧踏切)(1973年/2019年)
	106	上本郷駅(新京成線)(1970年/2019年)
	107	古ヶ崎小僧弁天(1936年/2019年)
	108	松戸駅西口(1957年/2019年)
	109	松戸駅東口商店街(1971年頃/2019年)
	110	坂川市民清掃行動デー/坂川(1988年/2019年)
	111	下横町の旧渡道場(1977年/2019年)
	112	角町交差点(1985年/2019年)
	113	北小金駅前(1954年/2019年)
	114	北小金駅(旧国鉄/J R)(1954年/2019年)
	115	小金原若芝交差点(1986年/2019年)
	116	常盤平駅(新京成線)(1966年/2019年)
	117	常盤平スロープ歩道(1974年/2019年)
	118	五香駅前商店街(1970年頃/2019年)
	119	五香駅(新京成線)(1970年/2019年)
	120	六実駅(旧東武野田線/東武アーバンパークライン)(1970年/2019年)
	121	常盤平 子和清水(1986年/2019年)
	122	八柱霊園(1936年/2019年)
	123	河原塚古墳(1986年/2019年)
124	八柱駅(新京成線)(1970年/2019年)	
125	運動公園体育館(1974年/2019年)	

はくぶつかんのたからものはっけん！ゾーン

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
どんな木の実をたべたの？	どんな木の実をたべたの？	126	体験展示	トチノキ	現生
		127	体験展示	マテバシイ	現生
	石皿と磨石・敲石	128	実物展示	蜂の巣石	子和清水遺跡出土
		129	実物展示	敲石	子和清水遺跡出土
		130	実物展示	磨石	子和清水遺跡出土
		131	実物展示	蜂の巣石	中堀込遺跡出土
		132	実物展示	石皿	殿平賀遺跡出土
		133	体験展示	石皿(レプリカ)	復元竪穴住居で体験
		134	体験展示	石皿(レプリカ)	復元竪穴住居で体験
		135	体験展示	磨石(レプリカ)	復元竪穴住居で体験
		136	体験展示	敲石(レプリカ)	復元竪穴住居で体験

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
土のつみかさなり、モノの古さ	土層パズル	137	体験展示	土層パズル	土層ヒントを手がかりに5つの土器を新しい順に並べるパズル。
	貝の花遺跡の土器と土層	138	実物展示	深鉢形土器	貝の花遺跡出土
		139	実物展示	深鉢形土器	貝の花遺跡出土
		140	実物展示	深鉢形土器	貝の花遺跡出土
		141	実物展示	深鉢形土器	貝の花遺跡出土
		142	実物展示	深鉢形土器	貝の花遺跡出土
		143	実物展示	台付鉢形土器	貝の花遺跡出土
		144	実物展示	浅鉢形土器	貝の花遺跡出土
		145	実物展示	台付鉢形土器	貝の花遺跡出土
		146	実物展示	深鉢形土器(破片)	貝の花遺跡出土
		147	実物展示	深鉢形土器(破片)	貝の花遺跡出土
		148	実物展示	台付鉢形土器	貝の花遺跡出土
		149	実物展示	鉢形土器	貝の花遺跡出土
150	実物展示	台付壺形土器	貝の花遺跡出土		
文様のへんか	文様のへんか	151	実物展示	深鉢形土器	子和清水遺跡出土
		152	実物展示	深鉢形土器	子和清水遺跡出土
		153	実物展示	深鉢形土器	子和清水遺跡出土
		154	実物展示	深鉢形土器	紙敷遺跡出土
		155	実物展示	深鉢形土器	下水遺跡出土
	文様をつけてみよう	156	体験展示	粘土・縄・ヘラ	粘土に縄やヘラで文様をつける体験展示。
土器パズルにちょうせん！	土器パズルにちょうせん！	157	体験展示	立体土器パズル	子和清水遺跡出土土器のレプリカ
こだいメソポタミアのはんこ	こだいメソポタミアのはんこ	158	実物展示	円筒印章	
		159	実物展示	円筒印章	
		160	実物展示	円筒印章	
		161	実物展示	円筒印章	
		162	実物展示	円筒印章	
		163	実物展示	円筒印章	
		164	実物展示	円筒印章	
		165	実物展示	円筒印章	
		166	実物展示	円筒印章	
		167	実物展示	円筒印章	
		168	実物展示	スタンプ印章	
		169	実物展示	スタンプ印章	
		170	実物展示	スタンプ印章	
		171	実物展示	スタンプ印章	
172	体験展示	粘土			
173	体験展示	円筒印章(レプリカ)	2種類		
174	体験展示	スタンプ印章(レプリカ)	1種類		

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
発掘調査ってなんだろう？	発掘調査の再現展示	175	実物展示	平板測量機	
		176	実物展示	オートレベル	
		177	実物展示	巻き尺	
		178	実物展示	箱尺(スタッフ)	
		179	実物展示	コンベックス	
		180	実物展示	ポール	
		181	実物展示	水糸	
		182	実物展示	錘珠	
		183	実物展示	一輪車	
うきよえ(浮世絵)ってなに？	うきよえ(浮世絵)ってなに？	184	実物展示	富士三十六景 下総小金原	
		185	実物展示	江戸風俗十二ヶ月 五月 田植之図	
		186	実物展示	三芝居見立対面 沢村訥升	
		187	実物展示	東京両国通運会社川蒸 汽往復盛栄真景之図	
		188	実物展示	楽屋内 市川団十郎(復刻)	
		189	実物展示	美人名所合 利根川鯉漁	
		190	実物展示	江戸名所道外尽 日本橋の朝市	
191	実物展示	江戸名所道外尽 四ツ木通りの引ふね			
うきよえ(浮世絵)の作り方	うきよえ(浮世絵)をつくってみよう	192	体験展示	浮世絵体験シート	版木に見立てた5枚のアクリルシートを順番に重ねて、浮世絵の作り方を体験する。
		193	体験展示	浮世絵スタンプ	プレイルームで実施。多色刷りを再現したスタンプ(シャチハタ製)で、浮世絵の作り方を体験する。
120年前のおべんきょう	昔の教科書をよんでみよう！	194	実物展示	消息往来	
		195	実物展示	〔寛永十一年將軍家光上洛記〕	
		196	実物展示	修正新編 帝国読本 巻2	
		197	実物展示	実験日本修身書 巻3	
		198	実物展示	修正新編 帝国読本 高等科	
		199	実物展示	魚つくし問答	
		200	実物展示	謹身往来	
		201	実物展示	作文筆記	
		202	実物展示	作文筆記	
		203	実物展示	地理録	
	204	実物展示	〔墨絵・手紙文案綴〕		
	昔の教科書をみてみよう！	205	体験展示	「修正新編 帝国読本 巻2」と「魚つくし問答」のレプリカ	明治時代の教科書と図鑑のレプリカ(拡大してパウチ加工)を作成して、めぐりながら読める体験展示。

コーナー名称	展示項目	No.	展示形態	資料名称	備考
おもちゃ絵であそんでみよう	おもちゃ絵であそんでみよう	206	実物展示	春遊吉辰双六	
		207	実物展示	スゴロクアソビ ポウノオウチ(『幼年画報』第11巻第1号附録)	
		208	実物展示	志ん板 おさな子なぞづくし	
		209	実物展示	志ん板 ひなだん組立の図	
		210	実物展示	新版 舌切雀噺	
		211	実物展示	志ん板 さるかにかつせん	
		212	実物展示	組上絵 端午の節句	
		213	実物展示	単語図解	
		214	実物展示	[擬人絵 魚・野菜ほか]	
		215	実物展示	婦人束髪かつら附	
	とび双六のあそび方	216	体験展示	スゴロクアソビ ポウノオウチ(『幼年画報』第11巻第1号附録)のレプリカ	体験用にレプリカを作成(拡大してパウチ加工)。

◆関連行事

■土曜ワークショップ

①「天秤棒で桶をかついでみよう」(博物館友の会共催)(会場:当館1階玄関ロビー)

	開催日	時間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年1月7日(土)	13時00分～15時30分 の間で随時	こどもから 大人まで	博物館友の会有志	18人
第2回	1月21日(土)				31人
第3回	2月4日(土)				43人
第4回	2月11日(土・祝)				48人
第5回	2月18日(土)				33人
第6回	3月4日(土)				36人
第7回	3月18日(土)				25人
内容	天秤棒で桶をかついで、昔のくらしの一端を体験した。				

②「機織りをしてみよう」(博物館友の会共催)(会場:当館企画展示室前ロビー)

	開催日	時間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年1月28日(土)	13時00分～15時30分 の間で随時	こどもから 大人まで	博物館友の会 サークル・ はたくさの会有志	20人
第2回	2月11日(土)				29人
第3回	3月11日(土)				22人
内容	機織の道具を使って、裂き織りの体験をした。				

③「古代メソポタミアの宅急便」(森のこども館共催)(会場:森の工芸館・当館プレイルーム)

	開催日	時間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年2月4日(土)	10時00分～15時30分 の間で随時	こどもから 大人まで	当館学芸員 西村広経	54人
第2回	3月4日(土)				47人
内容	古代メソポタミアの円筒印章やスタンプ印章のレプリカを用い、その使い方を学び体験した。				

④「ゲームでまなぶ ときのふるさ／あたらしさ」(会場:森の工芸館)

	開催日	時 間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年1月14日(土)	1回目:10時00分 ～11時00分	こどもから 大人まで	当館学芸員 西村 広経	4人
第2回	3月25日(土)	2回目:13時30分 ～14時30分			18人
内容	ペットボトルの中に様々な土やアイテムを重ね、またそのアイテムを自分で発掘することで、土層のなりたちや土器の古さがわかる仕組みを学んだ。				

⑤ゲームでまなぶ じょうもんときのもよう(会場:当館実習室)

	開催日	時 間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年1月28日(土)	1回目:10時00分 ～11時00分	こどもから 大人まで	当館学芸員 西村 広経	21人
第2回	2月25日(土)	2回目:13時30分 ～14時30分			38人
内容	土器の文様をスケッチする伝言ゲーム。文様の伝わり方を体験した。				

⑥むかし体験！筆で手紙をかいてみよう(会場:当館企画展示室前ロビー)

	開催日	時 間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年1月14日(土)	1回目:10時00分 ～11時00分	こどもから 大人まで	当館学芸員 林 幸太郎	4人
第2回	2月18日(土)	2回目:13時30分 ～14時30分			6人
内容	昔の手紙がどのように書かれていたかを学び、実際に墨をすって筆で手紙を書く体験をした。				

⑦オリジナルのミニ屏風を作ろう！(会場:当館実習室) ※事前申込制

	開催日	時 間	対象者	講師	参加人数
第1回	令和5年3月11日(土)	1回目:10時00分 ～11時00分	こどもから 大人まで	当館学芸員 林 幸太郎 学習支援専門員 鵜沼 豊	10人
第2回	3月25日(土)	2回目:13時30分 ～14時30分			9人
内容	屏風について学び、自分で描いた絵や博物館所蔵資料のぬり絵を貼ったオリジナルのミニ屏風を作った。				

⑧紙芝居と昔のあそびを楽しむ日(会場:当館企画展示室前ロビー)

	開催日	時 間	対象者	講師	参加人数
紙芝居	令和5年3月26日(日)	1回目:13時00分～ 2回目:14時30分～	こどもから 大人まで	紙芝居屋てるさん	79人
昔のあそび	令和5年3月26日(日)	13時00分～15時30分 の間の紙芝居をして いない時	こどもから 大人まで	博物館友の会有志	21人
内容	昔の子どもたちが楽しんだ紙芝居やけん玉などの遊びを体験した。				

■こどもミュージアム見学会(会場:企画展示室)

対 象 者 市内小中学校教員

開催月日 令和5年1月18日(水) 18時00分～19時00分

内 容 千葉県教育研究会社会科部会松戸支会会員を中心とした、市内小中学校教員による企画展「こどもミュージアム」の見学会。担当学芸員による展示概要の説明と質疑応答を行った。

講 師 青木 俊也・藤原 哲・西村 広経・林 幸太郎(当館学芸員)・田中 祥隆(当館学習支援専門員)

参加人数 19名(5校[市内小学校4校、中学校1校])

3 学習支援

(1) 講演会

■館長講演会

演 題 「江戸時代の小金宿とその周辺」
対 象 者 一般
開催月日 令和4年9月18日(日)
講 師 渡辺 尚志(当館館長)
会 場 当館講堂
参加人数 62人

■歴史を語る

第1回 演 題 「9世紀から14世紀までのイラン製陶器の歴史－奥井コレクションのイスラーム陶器を読み解く」
対 象 者 一般
開催月日 令和4年5月7日(土)
講 師 神田 惟氏(日本学術振興会特別研究員PD)
会 場 当館講堂
参加人数 49人

第2回 演 題 「近世松戸と鮮魚街道～銚子から日本橋への道」
対 象 者 一般
開催月日 令和4年8月6日(土)
講 師 出口 宏幸氏(江東区文化財主任専門員)
会 場 当館講堂
参加人数 49人

第3回 演 題 「家内安全 商売繁盛 幸運を呼ぶ縁起物」
対 象 者 一般
開催月日 令和4年11月20日(日)
講 師 堀 充宏氏(葛飾区郷土と天文の博物館学芸員)
会 場 当館講堂
参加人数 16人

■学芸員講演会(会場:当館講堂、13時00分～15時00分 当日先着順)

各学芸員が専門分野に関して講演した。

開催月日	タイトル	講師	参加人数 (うち友の会会員)
令和4年5月21日(土)	「奥井コレクションで学ぶ先史・古代のイラン」	西村 広経	35人(11人)
7月31日(日)	「古文書からさぐる松戸の江戸時代」	富澤 達三	66人(20人)
10月29日(土)	「開墾局のお仕事－五香六実を拓いた人々①－」	林 幸太郎	50人(15人)
11月6日(日)	「戦争と国家の形成」	藤原 哲	35人(10人)
令和5年1月15日(日)	「プラスチック関連資料からふりかえる『高度経済成長』の明暗－東京都と企業の映像資料を題材にして－」	山田 尚彦	12人(6人)
2月26日(土)	「鎌倉殿は十四、五人」	中山 文人	55人(不明)
3月5日(土)	「常盤平団地60年の生活史再論」	青木 俊也	26人(6人)

(2) 講座

■古文書を読む(近世入門編)(会場:当館実習室)

開催月日 令和5年1月22日(日)～3月19日(日)までの隔週土曜日(全5回)

講師 仲泉 剛氏(熊谷市社会教育課市史編さん室嘱託)

内容 市内旧家の古文書をテキストに、当時の時代背景なども説明しながら、くずし字の解説をおこなった。

応募人数 47人(抽選)

参加人数 延べ121人(①25人②25人③22人④25人⑤24人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅰ)(会場:当館実習室)

開催月日 令和4年9月10日(土)～11月5日(土)までの隔週土曜(全5回)

講師 和泉 清司氏(高崎経済大学名誉教授)

内容 千駄堀の名主・土屋亮平家文書の御用留を解説した。テキストは「弘化四年 未十一月 御鹿狩二付 御用留帳」(TR03439)で、23-32頁を読んだ。読了後「嘉永二年西四月 南相馬御用留」(TR02419)を8頁まで読んだ。

応募人数 30人

参加人数 延べ126人(①26人②24人③25人④26人⑤25人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅱ)(会場:当館実習室)

開催月日 令和5年1月14日(土)、1月28日(土)、2月12日(日)、2月26日(日)、3月12日(日)(全5回)

講師 出口 宏幸氏(江東区文化財主任専門員)

内容 千駄堀の名主・土屋亮平家文書の御用留「嘉永二年西四月 南相馬御用留」(TR02419)を65～85頁(左側「議定書之事」の前)まで読んだ。

応募人数 32人(抽選)

参加人数 延べ128人(①26人②27人③27人④26人⑤22人)

■吾妻鏡を読む(会場:男女共同参画センターゆうまつど)

開催月日 令和4年8月26日(金)～10月21日(金)までの隔週金曜日(全5回)

講師 中山 文人(当館学芸員)

内容 「吾妻鏡(北条本・国立公文書館蔵)」の写真版を、寿永3(1184)年1月27日から2月13日まで解説・解説した。一の谷合戦を多角的に観察するために、同時期の貴族の日記『玉葉』の積極的利用、諸説の紹介、平家物語との比較などに時間を割いた。

応募人数 41人(抽選)

参加人数 延べ122人

■3次元計測入門講座「博物館で3D！」

(会場:当館実習室 共催:(一社)路上博物館)

対象者 一般(小学校5年生以上)

開催年月 令和4年12月17日(土)13:00～16:30、12月18日(日)10:00～16:30

内容 博物館所蔵の縄文土器をフォトグラメトリにより3Dモデル化し、Sketchfabを利用してweb上に公開する。

講師 森 健人氏(路上博物館 館長兼理事長)・西村 広経(当館学芸員)

参加人数 4組7人

■松戸市パートナー講座

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	参加人数
令和4年 11月5日(土)	松戸の歴史を学ぼうー上本郷と市域の歴史ー鎌倉・室町時代ー	南花島いきいきサロン	中山 文人 (当館学芸員)	26人

■その他講師派遣等

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	場所	参加人数
令和4年 7月24日(日)	「飛び道具の技術文化史～旧石器時代から西南戦争まで」特別展案連記念講演会「狩猟と戦闘を巡る人類史」	宮崎県立西都原考古資料館	藤原 哲 (当館学芸員)	宮崎県立西都原考古資料館	25人
10月15日(土)	加曽利貝塚特別研究講座「縄文時代後期中葉土器群の変遷からみた地域間関係」	千葉市立加曽利貝塚博物館	西村 広経 (当館学芸員)	千葉市生涯学習センター	74人
11月26日(土)	古墳出土の武器と古墳時代の軍事組織について	長柄桜山古墳をまもる会(神奈川県三浦郡葉山町)	藤原 哲 (当館学芸員)	葉山自治会ホール	30人
令和5年 1月20日(金)	常盤平団地の歩みと歴史的価値について	松戸市総合政策部政策推進課	青木 俊也 (当館学芸員)	常盤平団地中央集会所	27人

(3) 体験学習

■こども体験教室「親も楽しむ 米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」

(博物館友の会共催)(会場:21世紀の森と広場の水田・博物館実習室等)

対象者 小学4～6年生と保護者の方

開催月日 ①令和4年5月14日(土)田植え

②6月18日(土)田の草取り

③7月30日(土)案山子づくり

④9月24日(土)稲刈り

⑤10月8日(土)脱穀

⑥11月12日(土)かまどでご飯を炊く・展示づくり①

⑦12月3日(土)展示づくり②

⑧令和5年1月7日(土)展示づくり③

⑨1月29日(日)小学生学芸員展示解説会

内 容 コロナ禍等で令和元年度から休止していたが、4年ぶりに再開した。

21世紀の森と広場内の水田で、田植え、田の草取り、案山子づくり、稲刈り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらにその作業を示したパネルをつくり、企画展「こどもミュージアム」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示し、展示解説会を行なった。なお、この体験教室には博物館友の会有志の協力を受けた。

講 師 青木 俊也・中山 文人(当館学芸員)・博物館友の会会員

応募人数 11人(小学生6人、保護者5人)(※定員6組)

参加人数 延べ95人(小学生52人、保護者43人)

(①11人②11人③11人④7人⑤11人⑥11人⑦11人⑧11人⑨11人)

■こども体験教室「親も楽しむ 土鈴づくり」(会場:実習室)

開催日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
令和4年 7月30日(土)	①10:00~11:00	小学生と保護者 ※児童だけの参加も可	藤原 哲 (当館学芸員)	50人	12人 (児童6人、 保護者6人)
	②13:30~14:30				
内容:粘土で縄文時代の鈴(土鈴)を作り、縄文時代の技術の一部を体験してもらった。					

■こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」(会場:実習室)

開催日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
令和4年 8月6日(土)	④10:00~11:00	小学生と保護者 ※児童だけの参加も可	西村 広経 (当館学芸員)	50人	14人 (児童7人、 保護者7人)
	⑤13:30~14:30				
内容:やわらかい石を磨いて勾玉(まがたま)を作り、縄文時代の生活技術の一端を知ってもらった。					

■堅穴宿泊体験

(運営をNPO法人 松戸子育てさばーとハーモニーに委託)

対象者 小学校5~6年生

事前説明会

日程 令和4年8月21日(日) 11:00-12:00

参加人数 7人

宿泊体験

日程 令和4年9月17日(土)~9月18日(日)

応募人数 6人

参加人数 4人(当日1人欠席)

※事前説明会への参加を応募条件とし、志望動機等に基づいて参加者を選考した。

内容 縄文時代文化の一端を体験してもらうため、復元堅穴住居に宿泊した。夕飯時には旧石器時代に行われていたと想定される石蒸し調理の体験を実施したほか、博物館見学、ドングリ加工体験等のプログラムを実施した。

■ワークショップ「獅子頭カスタネット作り」

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 令和4年11月12日(土) 10:00~15:45

参加人数 79人

内容 まつど音楽フェスティバルの関連行事として、紙にパーツを貼り付け、オリジナルの獅子頭カスタネットを作成した。

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」(友の会共催)

開催日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
令和5年 2月8日(水) 2月9日(木)	①9:40-10:20	一般	青木 俊也 (当館学芸員)	各回1人 (定員10名)	10人 (各回1人)
	②10:40-11:20				
	③11:40-12:20				
	④13:40-14:20				
	⑤14:40-15:20				
内容:古い布を裂いて、新しい布に再生する。					

(4) ミュージアムシアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映の権利を有する映像ソフトを、講堂において毎日・月替わりで定時上映した。ただし、講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間 午後1時15分、午後3時15分

※土日祝日の午後1時15分上映分は「キッズシアター」として、子ども向けプログラムを上映した。

ミュージアムシアター

上映月	作品名	上映日数	観覧者数	一日平均
令和4年4月	日本の民俗芸能5 若狭の王の舞	25日	56人	2人
5月	森浩一が語る日本の古代1 特別編 考古学の楽しみ	23日	65人	2人
6月	奇跡の映像 よみがえる100年前の世界9 カーンの死・“夢”の終わり	20日	65人	3人
7月	博物館を支える学芸員の仕事I 資料の収集と整理保管	24日	56人	2人
8月	ベアテ・ゴードン 憲法草案を起草したアートディレクター	24日	85人	3人
9月	千葉県指定無形民俗文化財 太田のエンヤホー	25日	71人	2人
10月	司馬遼太郎と城を歩く8 五稜郭・平戸城・会津若松城・江戸城 ※再上映	24日	111人	4人
11月	日本の染と織6 綴錦・紙布と紙子・織物の組織	22日	54人	2人
12月	大豆と小麦食品のルーツと技を探るシリーズ4 納豆のふるさとーアジアの納豆文化圏ー	22日	37人	1人
令和5年1月	企画展示関連映像1 現代日本の形成過程第30巻 住宅	21日	35人	1人
2月	企画展示関連映像2 現代日本の形成過程第41巻 農村と農業	23日	38人	1人
3月	企画展示関連映像3 現代日本の形成過程第42巻 都市の生活	26日	43人	1人
合計		279日	716人	2人

キッズシアター

上映月	作品名	上映日数	観覧者数	一日平均
令和4年4月	浦島太郎、金太郎、力太郎	10日	50人	5人
5月	うぐいすの里、平林、宝くらべ	10日	34人	3人
6月	いかとすめ、三人泣き、大工と鬼六	6日	27人	4人
7月	こぶとり爺さん、たにし長者、魚女房	9日	54人	6人
8月	ほら吹き娘、熊と狐、和尚と小僧の川渡り	7日	17人	2人
9月	しっぺいたろう、天にのぼった息子、無精くらべ	9日	37人	4人
10月	わたしべ長者、天の羽衣、厠の神様	10日	58人	5人
11月	仁王とどっこい、驚のさらい子、こんにゃく問答	7日	32人	4人
12月	絵姿女房、おいてけ堀、金をひろったら	8日	33人	4人

上映月	作品名	上映日数	観覧者数	一日平均
令和5年1月	一足千里のわらじ、山伏と白い狼、月日のたつのは早い	8日	30人	3人
2月	七羽の白鳥、謎の恋歌、「あ」は難しい	8日	42人	5人
3月	尻鳴りべら、涙を流した鬼の面、星の火	8日	29人	3人
合計		100日	443人	4人

■プレイルーム

年齢を問わず、いつでも来館者が楽しみながら学べる場として、無料で開放している。

新型コロナウイルス感染症対策のため、アンギン編みと糸車による糸つむぎの体験はプレイルームスタッフによる実演のみを行っていたが、アンギン編みの体験については、令和4年7月20日(水)より再開した。その他では、企画展示やイベント等に合わせて、獅子頭のカスタネット作り、縄文土器の文様施文体験、浮世絵スタンプ等を実施した。

【令和4年度常設体験プログラム】

- ・プレイルームでぬりえ！（こむそう〔虚無僧〕・たてあなじゅうきょ〔竪穴住居〕等、12種類）
- ・パズルをたのしもう！（御鹿狩〔おししがり〕の絵等、2種類）
- ・アンギン編み体験
- ・糸車による糸つむぎ（プレイルームスタッフによる実演）

令和4年度利用者総数 9,211人

(5) 館内公開

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 令和4年8月7日(日)

内 容 博物館の多様な活動への理解を促進するため、通常非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説するもの。

講 師 中山 文人・西村 広経(当館学芸員)

応募人数 14人

参加人数 10人

(6) ガイドツアー(常設展示解説)

令和4年6月3日(金)より再開し、379人が参加した。

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで、2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日随時受け付け行った(解説時間約30分間)。なお、団体観覧者においては適宜開催した。

(7) 情報提供

■閲覧コーナー

購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行っている。蔵書の一部は開架で提供している。

- ・蔵書数(令和5年3月31日現在)

開架図書冊数 1,292冊

閉架図書冊数 42,994冊

合計 44,286冊

- ・閲覧コーナーの利用者数 1,567人

- ・閉架図書の利用状況
利用人数 42人
利用冊数 95冊
- ・視聴覚資料数
ビデオテープ 418巻
CD 88枚
DVD 48枚

■刊行物

令和4年度の刊行物は次の通りである。

- ・松戸市立博物館年報 第29号
A4判70頁(本文69頁)500部 令和4年10月21日
- ・松戸市立博物館紀要 第30号
A4判65頁(本文62頁)800部 令和5年3月31日
- ・松戸市立博物館館蔵資料目録1「プラスチックのデザイン関係資料」
A4判318頁(本文309頁)500部 令和5年3月31日
- ・松戸市立博物館調査報告書7「森の住宅都市 常盤平団地の生活史 1960-2022」
A4判116頁(本文111頁)600部 令和5年3月31日

■SNSによる情報発信

令和元年4月29日に当館公式Facebook、Twitter、Instagramを開設し、最新情報を発信している。

■おうちミュージアム

令和2年1月以降、日本でも新型コロナウイルスが蔓延し、全国の博物館が閉館となるなか、3月4日に北海道博物館の呼びかけで、家で長時間を過ごす子供たちのために全国の博物館が“おうちで楽しく学べる”アイデアをオンラインで提供する「おうちミュージアム」が始まった。当館も令和2年4月下旬から参加し、令和2年度から引き続き、ホームページから情報発信を行っている。

■まつどデジタルミュージアム

新型コロナウイルスが蔓延し、おうち時間が増える中、松戸の歴史や文化をもっと深く、広くお知らせしたい。そんな思いから、松戸市立博物館と戸定歴史館が収蔵する貴重な資料を中心にウェブ上で公開し、解説を加えたもので、令和4年3月末から稼働している。多種多様なコンテンツの実際は、下記のURLを参照のこと。

<https://matsudo-digital-museum.jp>

■ミュージアムショップ

刊行物とミュージアムグッズを販売している。

※価格は税込

ミュージアムグッズ		
ジグソーパズル	5種類	各 900 円
	1種類	1,200 円
絵はがき	8種類	各 80 円
テレフォンカード	4種類	各 700 円
虚無僧ストラップ(青・緑)	2種類	各 750 円
一筆箋	4種類	各 300 円
縄文土器レプリカ深鉢型土器		完売
クリアファイル (じょうちゃん・もんちゃん)	3枚セット	100 円
クリアファイル (コシッキー1体・3体)	2種類	各 150 円
クリアファイル(地図)		200 円
クリアファイル(縄文土器)		200 円
ドンちゃんグリちゃん・ じょうちゃんもんちゃんシール		200 円
小風呂敷(下総国小金乃原御狩 之図)		680 円
ダイカットメモ(縄文・古墳)		各 300 円
手ぬぐい	2種類	各 550 円
不織布トート	3色	各 150 円
トートバッグ(埴輪・博物館)	2種類	各 390 円
ミニタオル		520 円
機織りハンドメイドポーチ(大)		1,700 円

資料集・報告書	
松戸市立博物館歴史資料集 1 東漸寺所蔵資料目録	700 円
松戸市立博物館歴史資料集 2 青木源内家所蔵資料目録追加	700 円
松戸市立博物館映像記録 VTR 送り大師 東葛飾印旛大師講の人々	完売
松戸市立博物館報告書 1 松戸の三匹獅子舞(VTR 含む)	5,400 円
松戸市立博物館報告書 2 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200 円
松戸市立博物館報告書 3 松戸市民家調査報告書	完売
松戸市立博物館報告書 4 松戸旧宿場町建築物調査報告書	2,100 円
松戸市立博物館報告書 5 農村松戸の民俗 -1960 年代調査の記録-	800 円
松戸市立博物館報告書 6 松戸市役所広報課旧蔵写真目録	900 円
松戸市立博物館館蔵資料目録 1 プラスチックのデザイン関係資料	2,300 円
松戸市立博物館報告書 7 森の住宅都市 常盤平団地の生活史1960-2022	1,200 円

図 録		
改訂版 常設展示図録(平成16年度)		完売
開設記念展 松戸写真館 -カメラがとらえた松戸の人々- (平成5年度)		完売
特別展 縄文土器の世界(平成5年度)	1,000 円	
企画展 救いの民俗 -地獄極楽冥土の旅-(平成6年度)		完売
特別展 馬と牧-かつて松戸は牧場だった- (平成6年度)		完売
企画展 稲と魚 -水田をめぐる漁・猟・採集- (平成7年度)	900 円	
特別展 古墳時代の飾り馬 -馬利用のはじまりをさぐる- (平成7年度)		完売
企画展 小金城主高城氏 (平成8年度・平成13年度再版)		完売
特別展 シルクロードとガンダーラ (平成8年度)	1,000 円	
特別展 福神の世界(平成9年度)		完売
特別展 ネアンデルタール人の復活 (平成10年度)	1,000 円	
企画展 水戸道中-宿場と旅人-(平成10年度)		完売
特別展 貝塚を考える(平成10年度)	1,200 円	
企画展 戦後松戸の生活革新 -新しい暮らし方へのあこがれ- (平成12年度)		完売
企画展 中世の東葛飾 -いのり・くらし・まつりごと- (平成13年度)	1,200 円	
企画展 弥生人の脳発見! -とっとり青谷上寺地遺跡展- (平成14年度)		完売
企画展 はにわの十字路 -古代東国の交流と地域性- (平成14年度)	1,000 円	
特別展 川の道 江戸川(平成15年度)		完売
企画展 昔のくらし探検<松戸版>(平成16年度)	500 円	
企画展 ペルシャ文明の曙 -文明の基層を探る-(平成17年度)	1,000 円	
企画展 戦国の城をさぐる -松戸市根本内歴史公園開園記念- (平成18年度)	1,000 円	
企画展 大名の旅-本陣と街道- -本陣と街道-(平成19年度)	1,000 円	
特別展 縄文時代の東・西(平成20年度)	1,000 円	
企画展 人生儀礼の世界(平成21年度)	1,000 円	
企画展 湯浅喜代治 考古コレクション -夢を追った70年-(平成22年度)	1,000 円	
企画展 東日本の古墳と渡来文化 -海を越える人とモノ-(平成24年度)		完売
特別展 松戸の発掘60年史 -市内の遺跡を再検討-(平成25年度)	1,000 円	
企画展 Plastic ? /Plastic ! -高度経済成長とプラスチック- (平成26年度)	1,000 円	
企画展 石斧と人 -3万年のあゆみ-(平成27年度)	800 円	
企画展 本土寺と戦国の社会(平成29年度)	900 円	
特別展 ガンダーラ -仏教文化の姿と形-(平成30年度)	1,000 円	

図 録		
企画展	松戸と徳川将軍の御鹿狩(令和2年度)	1,000円
企画展	古墳時代のマジカルワールド (令和3年度)	1,000円

紀 要		
松戸市立博物館紀要	第1号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第2号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第3号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第4号	700円
松戸市立博物館紀要	第5号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第6号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第7号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第8号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第9号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第10号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第11号	500円
松戸市立博物館紀要	第12号	500円
松戸市立博物館紀要	第13号	400円
松戸市立博物館紀要	第14号	500円
松戸市立博物館紀要	第15号	500円
松戸市立博物館紀要	第16号	600円
松戸市立博物館紀要	第17号	500円
松戸市立博物館紀要	第18号	500円
松戸市立博物館紀要	第19号	400円
松戸市立博物館紀要	第20号	500円
松戸市立博物館紀要	第21号	600円
松戸市立博物館紀要	第22号	500円
松戸市立博物館紀要	第23号	400円
松戸市立博物館紀要	第24号	300円
松戸市立博物館紀要	第25号	400円
松戸市立博物館紀要	第26号	500円
松戸市立博物館紀要	第27号	500円
松戸市立博物館紀要	第28号	700円
松戸市立博物館紀要	第29号	500円
松戸市立博物館紀要	第30号	600円

松戸市史	
松戸市史 上巻	完売
松戸市史 上巻(改訂版)「原始・古代・中世」	3,000円
松戸市史 中巻「近世」	5,500円
松戸市史 下巻(一)「明治」	4,000円
松戸市史 下巻(二)「大正・昭和」	3,900円
松戸市史史料編(一)「大熊家文書」	2,800円
松戸市史史料編(二)「近世諸家文書」	完売
松戸市史史料編(三)「萬満寺史料」	3,500円
松戸市史史料編(四)「本土寺史料」	5,500円
松戸市史史料編(五)上「秋谷家文書」	8,050円
松戸市史史料編(五)下「秋谷家文書」	7,500円
松戸市史史料編(六)「東漸寺史料」	5,000円
松戸市古文書目録(一)「諸家文書」	1,100円
松戸市古文書目録(二)「諸家文書」	1,500円
松戸市古文書目録(三)「本土寺文書他」	2,000円
松戸市古文書目録(四)「秋谷家文書」	2,500円
松戸市史考古資料集1 大谷口遺跡の土師器と須恵器	300円
松戸市史考古資料集2 千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする 考古資料	300円
松戸市史考古資料集3 関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告・ 寒風台遺跡出土石器再整理報告	300円
松戸市史考古資料集4 上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を 中心とする考古資料	400円

4 連携事業

(1) 博学連携プログラム

① 受入

■ 博物館実習

令和4年度博物館実習生

※実名省略

班	所 属
第1班	淑徳大学 人文学部歴史学科 4年
	東洋大学 文学部史学科 4年
	立正大学 文学部史学科 4年
	金沢美術工芸大 美術工芸学部美術科 4年
第2班	聖心女子大学 現代教養学部史学科 4年
	成城大学 文芸学部文化史学科 4年
	大正大学 文学部歴史学科 4年
	東京工芸大学 芸術学部インタラクティブメディア学科 4年

(1) 合同実習

月 日	午 前	午 後
7月24日(日)	実習内容説明、館内バックヤード見学	常設展・企画展見学

(2) 個別実習

第1班 7月28日(木)～7月31日(日)・8月6日(土)～8月7日(日)

月 日	午 前	午 後
7月28日(木)	近世・近代文書資料の整理	同左
7月29日(金)	こども体験教室「親も楽しむ 土鈴づくり」準備	同左
7月30日(土)	こども体験教室「親も楽しむ 土鈴づくり」補助	同左
7月31日(日)	葛飾区郷土と天文の博物館見学	流山市立博物館見学
8月6日(土)	こども向け展示メニュー開発	同左
8月7日(日)	こども向け展示メニュー研究発表	実習まとめ・レポート執筆など

第2班 8月4日(木)～8月10日(水)

月 日	午 前	午 後
8月4日(木)	近世・近代文書資料の整理	同左
8月5日(金)	こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」準備	同左
8月6日(土)	こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」補助	同左
8月7日(日)	葛飾区郷土と天文の博物館見学	流山市立博物館見学
8月9日(火)	こども向け展示メニュー開発	同左
8月10日(水)	こども向け展示メニュー研究発表	実習まとめ・レポート執筆など

■「千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会」による企画展の見学会

連携対象 松戸市内小中学校社会科教員

開催月日 令和5年1月18日(水)

内 容 担当学芸員が企画展「こどもミュージアム」の概要を解説後、見学を実施した。

参加人数 19人

②派遣

■出前講座

市内の小学校・中学校を対象とし、当該校からの要請に応え、博物館学芸員及び学習支援専門員が、通常の授業の中でゲストティーチャーとして指導・支援を行った。

・松戸特別支援学校

対象者 中学部生徒および教員

開催月日 令和4年9月21日(水)10時15分～11時00分

内 容 「じょうもんじだいのくらし」という題目で講義。縄文土器片の実物に触れてもらい理解の一助とした。

講 師 西村 広経(当館学芸員)、鵜沼 豊(当館学習支援専門員)

参加人数 12人

・専修大学松戸中学校

対象者 2年生

開催日時 令和4年11月26日(土)10時40分～11時25分

内 容 「“史料”からみる松戸の幕末維新」という題目で講義。松戸市大谷口に伝わった古文書の解読にチャレンジしてもらいながら、幕末維新を生きた市内の人びとの姿を紹介した。

講 師 林 幸太郎(当館学芸員)

参加人数 155名

③事業

■博物館でアート

対象者 ①②④小学生、③中学生以上

開催日時 ①令和4年7月31日(日)14:00～16:00

②令和4年8月7日(日)14:00～16:00

③令和4年8月20日(土)14:00～16:00

④令和4年10月15日(土)14:00～16:00

内 容 博物館の環境を利用してさまざまな造形活動に取り組んだ。令和4年度は色鉛筆を使った浮世絵(松戸市立博物館所蔵)の塗り絵と、クラフトバンド(紙製のバンド)を使った縄文時代の編物(小物入れ)づくりを体験した。

講 師 鵜沼 豊(当館学習支援専門員)

参加人数 合計35人 ①11人②8人③9人④7人

■第7回博物館アワード

趣 旨 博学連携の一環として、博物館の機能並びに環境を生かしたコンクールを開催することにより、児童生徒の博物館に対する理解を深めるとともに、博物館の積極的な活用を推進する機会とする。



募集概要 (1) 募集内容並びに募集対象者

①歴史に関する自由研究部門

小学生3・4年の部、小学生5・6年の部、中学生の部

②歴史に関するイラスト部門

小学生3・4年の部、小学生5・6年の部、中学生の部

(2) 募集期間

令和4年9月1日(木)～9月16日(金)

(3) 表彰

①自由研究部門各部の最優秀作品の中から市長賞、教育長賞、博物館長賞各1点、さらに各部3点が優秀賞、その他31点が佳作。

②イラスト部門各部の最優秀作品の中から市長賞、教育長賞、博物館長賞各1点、さらに各部3点が優秀賞、その他35点が佳作。

応募点数	小学生3・4年の部	小学生5・6年の部	中学生の部	合計
自由研究部門	39	64	89	192
イラスト部門	60	65	137	262

応募校数 ・自由研究部門 31校
・イラスト部門 31校

■第7回博物館アワード作品展

展示意図 第7回博物館アワード(歴史自由研究部門、歴史イラスト部門)に応募した小中学生の入賞、入選作品を展示した。

主催 松戸市立博物館

会期 令和4年11月19日(土)～12月11日(日)

会場 松戸市立博物館 企画展示室

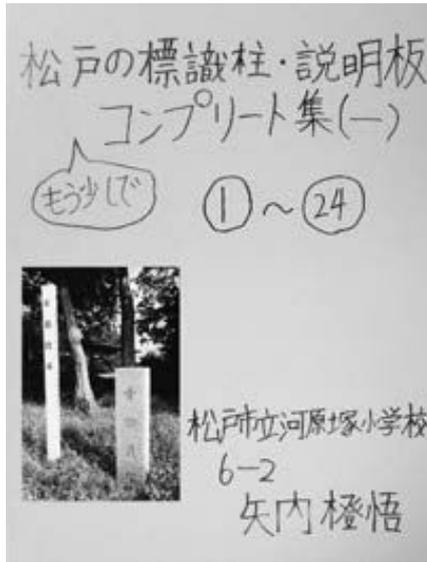
観覧料 無料

作品数 自由研究部門 43点

イラスト部門 262点



自由研究部門 市長賞
「江戸の河川水運」
(小金南中学校 1年)



自由研究部門 教育長賞
「松戸の標識柱・説明板」
(河原塚小学校 6年)



自由研究部門 博物館長賞
「江戸・明治の大工事」
(鱒ヶ崎小学校 4年)



イラスト部門 市長賞
「祈り」
(西初石中学校 3年)



イラスト部門 博物館長賞
「願い四届、灯ろう流し」
(中部小学校 3年)



イラスト部門 教育長賞
「萬満寺の本殿」
(馬橋北小学校 6年)

(2) その他

■野菊野こども館ワークショップ「縄文のなぞにせまる」

連携対象 野菊野こども館

対象者 小学生

開催月日 令和4年8月17日(水)13時30分～14時30分

内容 縄文土器の文様施文体験、はっくつゲームで学ぶ土器の古さ／新しさ

場所 野菊野こども館

講師 西村 広経(当館学芸員) 鵜沼 豊・田中 祥隆(当館学習支援専門員)

参加人数 15人

■ワークショップ「ドングリ加工体験」

連携対象 森のこども館

対象者 どなたでも

開催月日 令和4年11月5日(土)・6日(日)10時00分～15時30分

場所 森の工芸館

内容 石皿、磨石等の模造品を使ってドングリの殻剥き、すりつぶしを体験する。

講師 西村 広経(当館学芸員)

参加人数 80人

5 調査・研究

(1) 研究員の活動

「松戸市立博物館研究員設置要項」に則り、研究員を委嘱した。

柴田 徹 (有限会社 考古石材研究所)

研究テーマ「産地判別不可となった黒曜石の産地推定方法の確立、栗山古墳に使われている石材の産地に関する研究」

成果: 子和清水遺跡で出土した黒曜石製石器657点の実体顕微鏡による岩相観察と比重計測を実施した。また、富津市域の海岸を巡検し、いわゆる房州石の岩相を観察した。

渋谷 文雄 (渋谷文雄一級建築士事務所)

研究テーマ「幸田貝塚の住居址についての建築史学的研究」

成果: 幸田貝塚から発掘された縄文時代前期(関山式期)の住居址について、その平面形を分析し、住居址間で共通する特徴を抽出した。その成果は『松戸市立博物館紀要』第30号で公表した。

(2) 学芸員の活動

富澤 達三 専門分野: 日本近世史・歴史民俗資料学

研究テーマ「動物から探る松戸の近世」「図像資料から探る松戸の近世」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」担当 (令和4年7月16日～8月28日)
- ・講演会講師 学芸員講演会「古文書から探る松戸の江戸時代」(令和4年7月30日)

[外部機関等協力活動]

- ・神奈川大学日本常民文化研究所・非文字資料研究センター、研究協力者 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

[所属学会]

地方史研究協議会、関東近世史研究会、明治維新史学会、日本民俗学会、国際浮世絵学会

藤原 哲 専門分野: 考古学

研究テーマ「古代の武器・軍事組織の研究」

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会「戦争と国家の形成」(令和4年11月6日)
- ・こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」(令和4年7月30日)
- ・企画展「こどもミュージアム」担当 (令和5年1月5日～3月26日)

[執筆]

- ・「移動・移住 (Migration) の考古学」『纏向学の最前線 桜井市纏向学研究センター設立10周年記念論集』(令和4年6月21日)
- ・「律令制下の武器数量に関する研究」『松戸市立博物館紀要』第30号 (令和5年3月31日)

[所属学会]

日本考古学協会、考古学研究会

西村 広経 専門分野: 先史考古学

研究テーマ「縄文時代後期中葉土器群の研究」「先史時代における社会複雑化過程の研究」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「イランの技とデザイン: 奥井コレクション展」担当 (令和4年4月29日～6月12日)
- ・講演会講師 学芸員講演会 「奥井コレクションで学ぶ先史・古代のイラン」(令和4年5月21日)

- ・講座講師 3次元計測入門講座「博物館で3D!」(令和4年12月17日・18日)
- ・企画展「こどもミュージアム」担当(令和5年1月5日～3月26日)
- ・(学会報告・連名)萩野はな・福田正宏・夏木大吾・出穂雅実・國木田大・齊藤譲一・太田圭・張恩恵・西村広経・崔桐赫・熊木俊朗 「北海道稚内における新石器/縄文時代遺跡の実態調査(2021-2022年度)」(第22回北アジア調査研究報告会 令和5年2月12日)

[外部機関等協力]

- ・ワークショップ講師 「縄文のなぞにせまる」(野菊野こども館 令和4年8月17日)
- ・出前講座講師 「縄文時代の暮らし」(松戸特別支援学校 令和4年9月21日)
- ・講演会講師 加曽利貝塚特別研究講座 「縄文時代後期中葉土器群の変遷からみた地域間関係」(千葉市生涯学習センター 令和4年10月15日)
- ・野外調査 宗谷岬周辺遺跡の調査(調査主体:東京大学考古学研究室 令和4年10月17日～10月28日)

[執筆]

- ・(編著)『奥井コレクションのイスラーム陶器』松戸市立博物館(令和4年4月29日)
- ・「縄文/弥生移行期の新井田川・馬淵川流域における穀類利用」設楽博己編『東日本穀物栽培開始期の諸問題』(雄山閣 令和5年3月31日)
- ・「松戸市貝の花遺跡出土注口土器の再検討」『松戸市立博物館紀要』第30号(令和5年3月31日)
- ・(共著)根岸洋・小久保竜也・西村広経「秋田県湯沢市鏡田遺跡・山田中学校グラウンド遺跡採集資料について」『秋田考古学』66(令和4年12月28日)

[所属学会]

日本考古学協会 考古学研究会 青森県考古学会 早稲田大学考古学会

林 幸太郎 専攻分野:日本近現代史

研究テーマ「近代における開墾事業の実態と地域社会への影響に関する研究」
「華族・士族の社会的役割に関する研究」

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会「開墾局のお仕事-五香六実を拓いた人々①-」(令和5年10月29日)
- ・企画展「こどもミュージアム」担当(令和5年1月5日～3月26日)

[外部機関等協力活動]

- ・出前講座講師「“史料”からみる幕末維新の松戸」(専修大学松戸中学校、令和4年11月26日)
- ・八街市史編さん委員会近現代専門部会専門委員(令和4年4月1日～令和5年3月31日)
- ・徳川林政史研究所非常勤研究生(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

[執筆]

- ・「明治零年代後半における庄内藩士族と君臣関係-家禄と松ヶ岡開墾の検討から-」『明治維新史研究』第22号(令和5年3月31日)

[所属学会]

明治維新史学会、地方史研究協議会、千葉歴史学会、駒沢史学会

山田 尚彦 専門分野:日本民俗学・文化人類学

研究テーマ:「地域社会における民俗芸能の継承と葛藤に関する研究」
「近代知識の大衆化に関する歴史社会学的研究」

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会「プラスチック関連資料からふりかえる「高度経済成長」の明暗-東京都と企業の映像資料を題材にして-」(松戸市立博物館 令和5年1月15日)

[執筆]

- ・松戸市立博物館(編)『館蔵資料目録1 プラスチックのデザイン関係資料』松戸市立博物館(令和5年3月31日)

[外部機関等協力活動]

- ・千葉大学非常勤講師「博物館資料論A」(令和5年2月1日～令和5年3月31日)

・日本民具学会第19期評議員（令和4年10月1日～）

[所属学会]

日本文化人類学会、日本民具学会、文化資源学会、日本写真学会、メディア史研究会、文化財保存修復学会

中山 文人 専門分野：日本中世史

研究テーマ：関東中世史の研究

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会「鎌倉殿は十四、五人」（令和5年2月26日）
- ・講座講師「吾妻鏡を読む」（全5回、令和4年8月26日～10月21日の隔週金曜日）

[外部機関等協力活動]

- ・パートナー講座講師 南花鳥いきいきサロン（令和4年11月5日）
- 「松戸の歴史を学ぼう－上本郷と市域の歴史-鎌倉・室町時代－」

[執筆]

- ・「永禄十二年二月、松戸・市川襲撃ノート」『松戸市立博物館紀要』第30号（令和5年3月31日）
- ・「上杉・里見氏の襲来と高城氏」『歴史研究』第709号（令和5年3月28日、戎光祥出版）

[所属学会]

千葉城郭研究会、歴史学研究会、地方史研究協議会

青木 俊也 専門分野：民俗学

研究テーマ「戦後生活史展示の研究」

「公団住宅団地生活史の研究」「葬墓習俗の研究」

[年間活動]

- ・企画展「こどもミュージアム」担当（令和5年1月5日～3月26日）
- ・体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくり－小学生学芸員なろう－」（令和4年5月14日から令和5年1月29日まで 全9回）
- ・体験教室講師「裂き織りをしてみませんか」（令和5年2月8日、9日 全10回）
- ・講演会講師 学芸員講演会「常盤平団地の生活史再論」（令和5年1月26日）

[執筆]

- ・松戸市立博物館（編）『松戸市立博物館報告書7 森の住宅都市 常盤平団地の生活史 1960-2022』松戸市立博物館（令和5年3月31日）

[外部機関等協力活動]

- ・講師派遣 松戸市総合政策部 政策推進課主催松戸SDGsキャラバン「常盤平団地の歩みと歴史的価値について」（令和5年1月20日）
- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師「博物館歴史資料学特論」（令和4年9月1日～令和5年3月31日）

[所属学会]

日本民俗学会、群馬歴史民俗研究会

6 資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料収集

受贈

・松戸市観光協会 様	「レコード（松戸市民歌/松戸小唄）」	1点
	「レコード（松戸音頭/君をまつどの）」	1点
・鈴木 千香枝 様	「盃（陸軍工兵学校行啓記念）」	1点



「レコード(松戸市民歌 わが松戸/松戸小唄)」

寄託

・上本郷獅子講中 様	「上本郷獅子講中史料」	528点
	「上本郷獅子舞 獅子頭羽根飾り」	3点
・石井 正人 様	「石井包人文書」	1,227点



「盃(陸軍工兵学校行啓記念)」

二次資料収集

受贈図書 116冊（団体73冊、個人43冊）

購入図書 60冊

交換図書 506冊

図書交換機関等 320カ所

購入逐次刊行物 31タイトル

受贈及び交換逐次刊行物 198タイトル

(2) 博物館資料の貸し出し

本年はなし

(3) 博物館資料の特別利用（令和4年4月1日～令和5年3月31日申請分）

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
1	令和4年5月12日	個人	調査	郷土の歴史の調査のため	小暮高一家文書7点
2	令和4年6月1日	株式会社 文明舎	写真掲載	情報誌およびWebへの掲載	松戸市立博物館外観写真1点
3	令和4年6月28日	株式会社 平凡社	写真掲載	別冊太陽『台所の100年』に掲載のため	「常盤平団地の誕生」ダイニングキッチンの写真1点
4	令和4年7月1日	千葉銀行	写真掲載	広報誌『Lounge』95号に掲載のため	二十世紀梨原木の写真1点
5	令和4年7月26日	千葉大学園芸学部戸定会	写真掲載	同窓会誌「戸定会報」に掲載するため	千葉大学工学部正門の写真1点
6	令和4年8月11日	株式会社 クレタ	写真掲載	雑誌「昭和40年男」に掲載のため	常盤平団地2DKの写真1式
7	令和4年8月25日	株式会社 ユニフォトプレスインターナショナル	写真掲載	教育教材「高校受験 入試直前12回 社会」に掲載のため	常盤平団地2DKの写真1点
8	令和4年9月7日	個人	写真掲載	馬橋、大川吉右衛門研究のため	大川五兵衛家文書16点
9	令和4年10月1日～12月31日	NHK千葉放送局	写真掲載	NHK千葉放送局公式Twitterへの掲載	松戸市役所広報課旧蔵写真3点
10	令和4年10月1日～12月31日	NHK千葉放送局	写真掲載	NHK千葉放送局公式Twitterへの掲載	松戸市役所広報課旧蔵写真11点
11	令和4年10月4日	株式会社 ゴシック	映像撮影	「林修のニッポンドリル」にて資料映像として使用	常盤平団地 住居内再現部分
12	令和4年11月3日	個人	写真掲載	「松戸史談」の論文に掲載	富士三十六景「鴻之台とね川」の写真1点

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
13	令和5年1月5日	株式会社 オフィス三銃士	写真掲載	書籍『(仮)懐かしくて素敵!心惹かれる昭和の暮らし』への掲載	常盤平団地2DKの写真1式
14	令和5年1月11日	千葉県環境生活部自然保護課	写真掲載	「第5回 房総ジビエコンテスト」ポスターへの掲載	「千代田之御表 小金原牧狩之図」ほか2点
15	令和5年1月20日	株式会社 あかね書房	写真掲載	書籍『すまいを考える本 住まいの機能と快適・安全でエコな生活』への掲載	常盤平団地の誕生の写真1点
16	令和5年1月20日	柏市教育委員会	写真掲載	紙媒体・電子書籍版『柏市史(沼南町史通史編)』への掲載	幸田貝塚第4次調査人骨出土状況写真
17	令和5年1月25日	グット!モーニング	写真掲載	グット!モーニングことば検定内で使用	常盤平団地の写真3点
18	令和5年2月1日	株式会社 ウィル	写真掲載	書籍『にているもの どこがちがうの?』への掲載	常盤平団地 ダイニングキッチンの写真1点
19	令和5年2月1日	土偶研究会	調査・写真撮影	研究会に係る資料調査	八ヶ崎遺跡出土縄文時代早期土偶ほか2点
20	令和5年2月1日 ~28日	個人	写真掲載	小金町に関する著作への写真掲載	『改訂版 常設展示図録』59頁 「小金宿町割図」1点
21	令和5年2月20日	株式会社 元気な事務所	写真使用	eo光TV「○○word」でイメージとして使用	「常盤平団地の誕生」ダイニングキッチンの写真2点
22	令和5年2月28日	株式会社 学研プレス	写真掲載	『モノの進化まるわかり事典』に掲載のため	1960年代の掃除機の写真1点
23	令和5年3月中	TBSテレビICT局アーカイブマネージメント部	写真掲載	TBSテレビのWeb連載「アーカイブ秘録」への掲載	常盤平団地展示の写真4点
24	令和5年3月20日 ~5月中旬	株式会社 スタジオ・ムーン	写真掲載	新京成電鉄広報誌「ciao」vol.166への掲載	「千代田之御表 松戸宿船橋」ほか4点
25	令和5年3月末	戎光祥出版株式会社	写真掲載	『歴史研究』第709号への掲載	「根本内城 障子堀」など4点
26	令和5年4月1日	個人	写真使用	金ヶ作村調査のため使用	「渡辺寛家文書」5点
27	令和5年4月14日	讀賣テレビ株式会社	写真使用	「大阪ほんわかテレビ」内で使用	常盤平団地水洗トイレ写真1点
28	令和5年4月17日	東京東信用金庫 松戸支店	写真掲載	東京東信用金庫 松戸支店50周年事業での展覧	「国道6号線写真」など6点
29	令和5年5月中旬	個人	写真撮影	著書への写真掲載	庚申待供養板碑ほか2点
30	令和5年5月24日	松戸市立博物館友の会	写真使用	松戸市立博物館友の会、古文書部会のテキスト作成のため使用	二ツ木湯浅家文書「慶応二年御用留」一冊
31	令和7年2月	光村出版株式会社	写真掲載	令和7年度版中学校教科書『美術1』(紙版・web版)への掲載	関山式土器の全体写真・展開写真の2点
32	令和7年4月1日	株式会社 帝国書院	写真掲載	令和7年度発行『社会科 中学生の歴史』(紙版・デジタル版など7種)への掲載	常盤平団地2DK室内写真1点

(4) 資料の燻蒸等

[収蔵庫燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする密閉燻蒸を行った。
期 間：令和4年6月20日（月）～6月27日（月）
対 象：第1～第4収蔵庫
委 託 先：関東港業（株）
使用薬剤：酸化プロピレン（商品名アルプ）

[燻蒸庫燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸庫燻蒸を行った。
期 間：令和4年9月27日～10月12日
対 象：歴史資料
委 託 先：関東港業（株）
使用薬剤：二酸化炭素

[博学連携展資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする包み込み燻蒸を行った。
期 間：令和4年4月5日～4月19日
対 象：展示資料
委 託 先：関東港業（株）
使用薬剤：二酸化炭素

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的とする駆除作業を行った。
期 間：令和4年6月23日～6月24日
対 象：復元竪穴住居3棟
委 託 先：関東港業（株）
使用薬剤：フェノトリン炭酸製剤（商品名ミラクンS）

[燻蒸庫活性炭の交換]

燻蒸庫活性炭槽の活性炭交換を行った。
期 間：令和5年2月3日
容 量：活性炭150kg
委 託 先：関東港業（株）

7 令和4年度 企画展・館蔵資料展アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

調査は、アンケート用紙をそれぞれ、企画展示室前ロビー(企画展アンケート)に置き、記入を利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

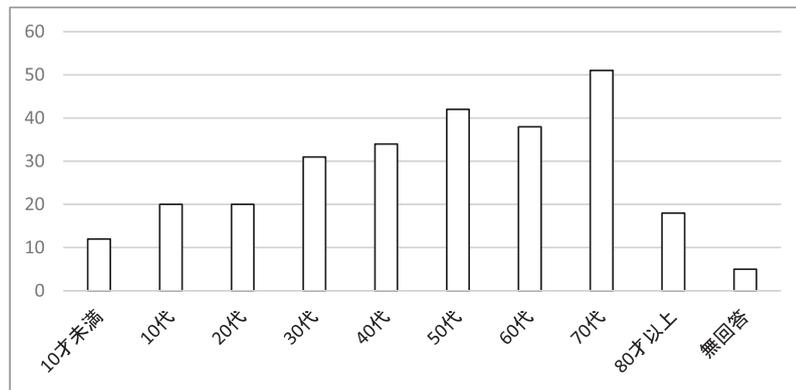
以下に、回答者の傾向を端的に示した“年齢”の集計、及び“来館回数”“満足度”という計3項目の結果をとりあげる。

(1) 館蔵資料展「イランの技とデザイン：奥井コレクション展」

- 観覧者数 4,057 人
- アンケート有効回答者数 271件(回答率 6.7%)
- 調査期間 令和4年4月29日(金・祝)～6月12日(日)

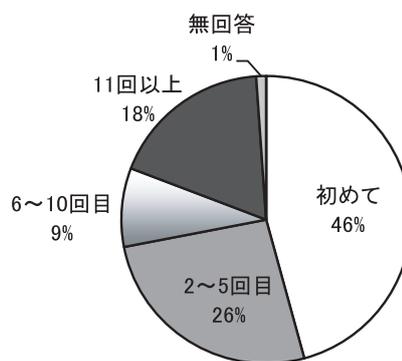
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢

	計
10才未満	12
10代	20
20代	20
30代	31
40代	34
50代	42
60代	38
70代	51
80才以上	18
無回答	5
計	271



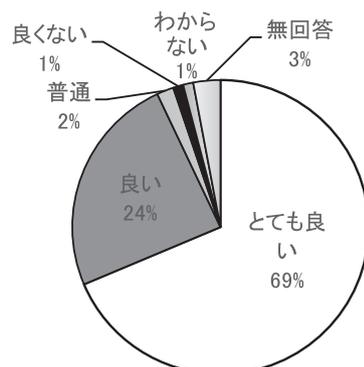
■ 来館回数(件)

初めて	124
2～5回目	71
6～10回目	24
11回以上	49
無回答	3
総計	271



■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	186
良い	66
普通	5
良くない	3
わからない	3
無回答	8
総計	271

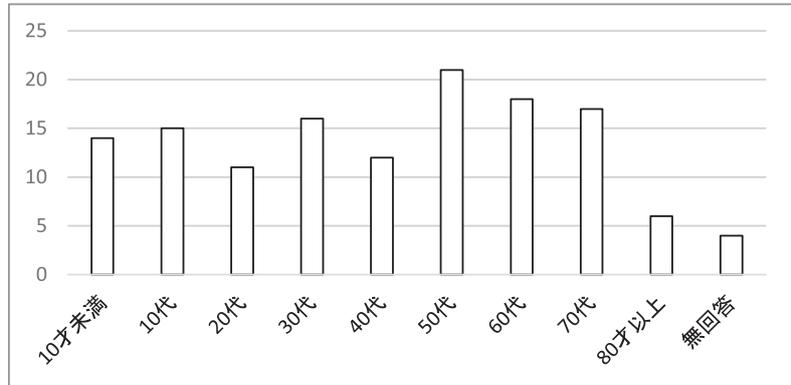


(2) 館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」

- 観覧者数 2,609人
- アンケート有効回答者数 134件(回答率 5.1%)
- 調査期間 令和4年7月16日(土)～8月28日(日)

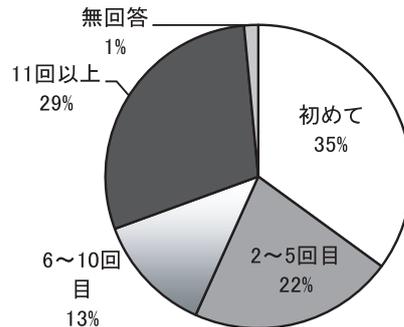
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢

	計
10才未満	14
10代	15
20代	11
30代	16
40代	12
50代	21
60代	18
70代	17
80才以上	6
無回答	4
計	134



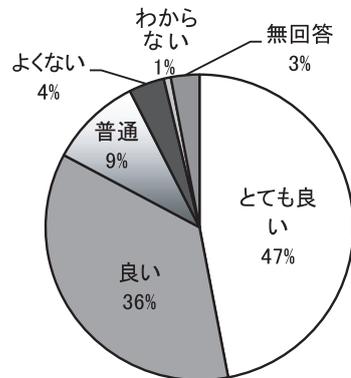
■ 来館回数(件)

初めて	47
2～5回目	29
6～10回目	17
11回以上	39
無回答	2
計	134



■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	63
良い	48
普通	13
よくない	5
わからない	1
無回答	4
計	134

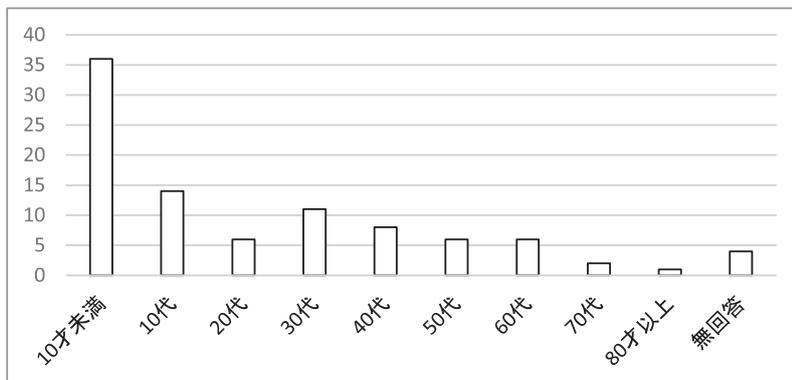


(3) 企画展「こどもミュージアム」

- 観覧者数 7,521人
- アンケート有効回答者数 91件(回答率 1.2%)
- 調査期間 令和5年1月5日(木)～3月26日(日)

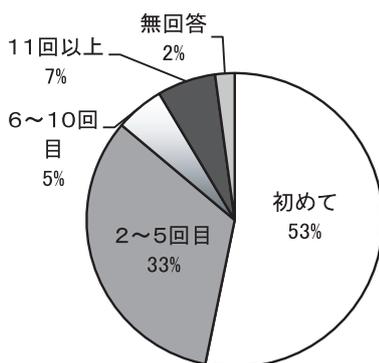
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢

	計
10才未満	36
10代	14
20代	6
30代	11
40代	8
50代	6
60代	6
70代	2
80才以上	1
無回答	4
計	94



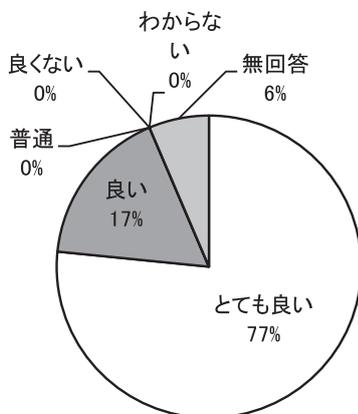
■ 来館回数(件)

初めて	50
2～5回目	31
6～10回目	5
11回以上	6
無回答	2
計	94



■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	72
良い	16
普通	0
良くない	0
わからない	0
無回答	6
総計	94



8 新型コロナウイルス感染症への対応

2019年12月に確認された新型コロナウイルス感染症は世界各国で感染が拡大し、社会と経済に大きな影響をもたらした。日本政府は2020年2月25日に「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を示し、当館においても感染防止対策として、手洗い・消毒・マスク着用などに努めた。

当館は2019年3月3日から31日まで感染拡大防止の観点から、臨時休館の対応を行った。2020年4月1日からは、団体見学の利用制限を行ないながら博物館活動を再開した。2021年度は、感染症対策を徹底しつつ、国や県の要請や基準に臨機応変に対応しながら、博物館活動を行った。

以下では、2022年度における当館での新型コロナウイルス感染症への対応を記す。尚、2022年3月21日にまん延防止等重点措置が解除された以降は、新型コロナウイルス感染症に関する行動制限は要請されていない。

2022年（令和4年）

・4月29日

感染症対策を講じながら館蔵資料展「イランの技とデザイン：奥井コレクション展」開催（～6月12日まで）。

・6月3日

博物館内の各種の人数制限を撤廃。（マスク着用・消毒・検温は継続）

講演会参加人数の上限を50名から75名に、講座参加人数を20名から30名に緩和。ただし、プレイルームの定員上限5名は運用上必要なため継続。復元竪穴住居見学については、混雑時に必要な場合は人数制限をすることとした。

・7月16日

感染症対策を講じながら館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」開催（～8月28日まで）。

・9月23日

感染症対策を講じながら美術展「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」開催（～11月6日まで）。

・11月19日

感染症対策を講じながら作品展「第7回博物館アワード」開催（～12月11日まで）。

2023年（令和5年）

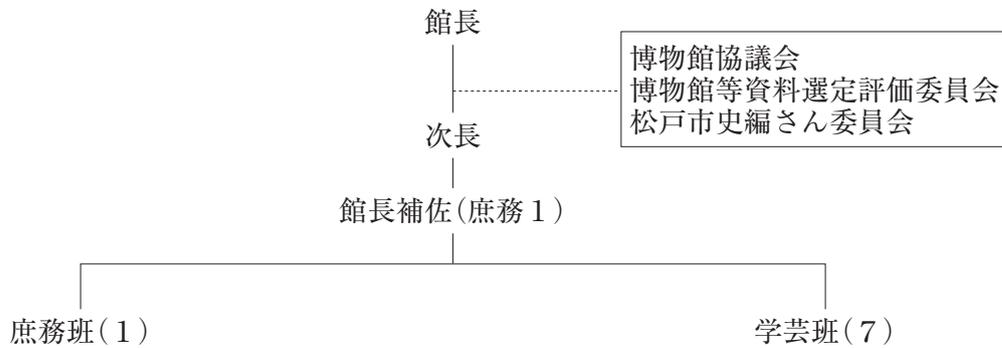
・1月5日

感染症対策を講じながら企画展「こどもミュージアム」開催（～3月26日まで）。

ハンズオン展示やワークショップについても、手指消毒等の感染症対策をしながら実施した。

IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	内訳			
		管理 運営	展示 事業	学習 支援	資料 収集
報酬	304	204	0	0	100
賃金	0	0	0	0	0
報償	993	0	383	360	250
旅費	89	0	0	0	89
需用	36,188	17,512	15,221	1,256	2,199
役務	3,135	784	1,921	70	360
委託	133,706	107,469	15,118	1,724	9,395
使用	14,513	9,867	3,510	740	396
工事	0	0	0	0	0
原材	20	20	0	0	0
備品	2,908	0	308	250	2,350
負担	89	0	0	0	89
計	191,945	135,856	36,461	4,400	15,228

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館管理運営事業	博物館協議会において、適正な事業方針を審議する。
博物館展示事業	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土の歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展・資料展・学習資料展を実施する。
博物館学習支援事業	歴史講座・体験教室・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
博物館歴史資産収集調査事業	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い、市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん事業	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史の編さんを行う。 平成10年度に市長から諮問のあった『松戸市史 上巻』の改訂については、平成26年度に『松戸市史 上巻(改訂版)』の刊行を行ったので、現在は、市長よりの諮問案件はない。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(令和5年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
1号委員 学校教育関係者	大野 寿※	松戸市立小金北小学校校長
	大西 一樹	松戸市立馬橋北小学校教諭
2号委員 社会教育関係者	山口 恵理子	北部幼稚園副園長
	岡田 啓時	松戸市立博物館友の会相談役
	谷鹿 栄一	千葉県立美術館主任上席研究員
3号委員 家庭教育の向上に 資する活動を行 う者	百田 清美	NPO法人ねばあらんど理事長
4号委員 学識経験者	濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授(建築史学)
	佐藤 孝之	東京大学名誉教授(近世史) 松戸市文化財審議会委員
	小島 孝夫	成城大学教授(民俗学)
	日高 慎	東京学芸大学教授(考古学)

任期2年 令和5年9月30日まで

※令和4年6月7日で西郡泰樹が退任

令和4年6月8日に大野寿が就任

第1回協議会

令和4年7月30日(土)

会場：博物館会議室

議題：(1)松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について
(2)館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ江戸時代編」内覧

第2回協議会

令和4年11月6日(日)

会場：博物館会議室

議題：(1)松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について

第3回協議会

令和5年3月4日(土)

会場：博物館実習室

議題：(1)松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)のパブリックコメントの結果報告について
(2)企画展「こどもミュージアム」内覧

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(令和5年3月31日現在)

氏名	専門	役職等
安蒜 政雄	考古	明治大学名誉教授
岡塚 章子	写真	江戸東京博物館 都市歴史研究室長
久保田昌希	歴史	駒澤大学名誉教授
佐野 賢治	民俗	神奈川大学名誉教授
渡辺 尚志	歴史	松戸市立博物館館長

任期2年 令和5年3月31日まで

(3) 松戸市史編さん委員会

※「3 事務業務」にて記載のとおり、平成10年度に市長から諮問のあった事業については、平成26年度で終了したので、現在は市長からの諮問案件はない。

5 博物館利用者数の統計

利用者総計 67,215人

利用者の内訳は以下の通りである。

常設展示観覧者数（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

月	開館日数(日)	有料観覧者数(人)					無料観覧者数(人)								観覧者総数(人)
		個人		団体		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等	友の会	無料開放日	無料観覧者計	
		一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生										
4	25	534	32	0	0	566	193	66	44	242	9	4	141	699	1,265
5	25	688	50	20	0	758	0	54	52	282	38	20	404	850	1,608
6	20	438	48	0	0	486	215	60	21	135	13	12	80	536	1,022
7	27	649	39	6	2	696	22	80	44	311	35	13	0	505	1,201
8	25	634	61	0	0	695	15	73	45	363	43	13	0	552	1,247
9	26	981	94	6	0	1,081	190	87	72	285	24	3	0	661	1,742
10	25	1,146	43	0	0	1,189	149	107	180	383	28	8	0	855	2,044
11	25	764	63	56	0	883	314	115	95	255	14	12	701	1,506	2,389
12	22	482	26	0	0	508	164	39	31	181	28	7	0	450	958
1	23	498	38	0	0	536	644	97	33	213	53	4	0	1,044	1,580
2	24	612	39	8	0	659	778	51	44	354	15	4	0	1,246	1,905
3	27	596	42	0	0	638	63	72	40	266	11	7	0	459	1,097
計	294	8,022	575	96	2	8,695	2,747	901	701	3,270	311	107	1,326	9,363	18,058

企画展示等観覧者数

展覧会	開催期間	開館日数(日)	有料観覧者数(人)					無料観覧者数(人)								観覧者総数(人)	
			個人		団体		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等	友の会	無料開放日	無料観覧者計		
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生											
館蔵資料展「イランの技とデザイン：奥井コレクション展」	R4.4.29～ R4.6.12	38														4,057	4,057
館蔵資料展「古文書をみる 絵図をよむ 江戸時代編」	R4.7.16～ R4.8.28	37														2,609	2,609
美術展「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」	R4.9.23～ R4.11.6	38	1,037	76	0	0	1,113	75	155	259	342	277	0	701	1,809	2,922	
企画展「こどもミュージアム」	R5.1.5～ R5.3.26	70													7,521	7,521	
小計		184													15,996	17,109	
第7回博物館アワード作品展	R4.11.19～ R4.12.11	19													1,439	1,439	
計		202													17,435	18,548	

※令和4年度の館蔵資料展等は無料展示であり、観覧者の内訳を把握していない。

博物館無料ゾーン利用者

博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	講座・講演会等参加者	合計
日数(日)	294	279	287	—	—
利用者総(人)	9,211	1,159	18,353	1,886	30,609

博物館利用者総計 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

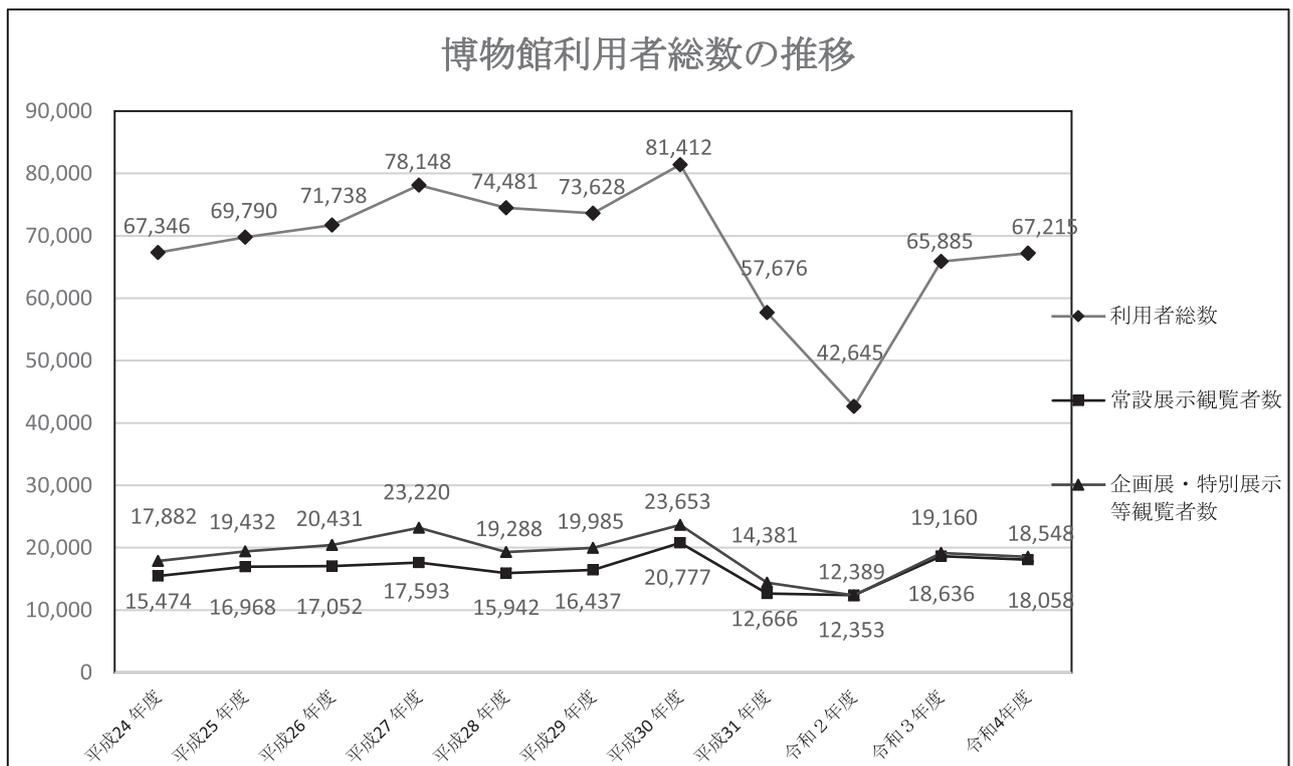
単位：人

	令和3年度	令和4年度	前年度比較
常設展示観覧者数	18,636	18,058	△578
企画展・特別展示等観覧者数	19,160	18,548	△612
博物館無料ゾーン利用者	28,089	30,609	2,520
利用者総計	65,885	67,215	1,330

博物館利用者総数の推移

単位：人

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者総数	67,346	69,790	71,738	78,148	74,481	73,628	81,412	57,676	42,645	65,885	67,215
常設展示観覧者数	15,474	16,968	17,052	17,593	15,942	16,437	20,777	12,666	12,389	18,636	18,058
企画展・特別展示等観覧者数	17,882	19,432	20,431	23,220	19,288	19,985	23,653	14,381	12,353	19,160	18,548
うち) 企画展観覧者数	2,885	2,576	2,641	3,809	2,917	4,153	8,959	5,109	4,675	6,216	7,521
その他展示観覧者数	14,997	16,856	17,790	19,411	16,371	15,832	14,694	9,272	7,682	12,944	11,027
講座・講演会等参加者数	3,368	3,259	3,291	3,052	5,999	6,910	6,554	2,598	399	861	1,886



6 来訪者（敬称略）

令和4年

4月5日 株式会社ウェッジ 取材
5月22日 「Ciao」取材
6月7日 J:COM 取材
7月14日 松戸市立看護学校 見学
7月27日 UR都市機構 東日本賃貸住宅本部 東京東・千葉エリア再生部 ストック再生事業課 見学
9月22日 千葉県生涯学習大学 見学
11月5日 川村学園女子大学学芸員課程 見学
11月16日 千葉県自然保護課
11月20日 千葉大学 見学

令和5年

3月4日 千葉大学学芸員課程 見学

V 条例・規則

松戸市立博物館条例

平成4年9月24日松戸市条例第28号

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (5) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (6) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (7) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

- 2 教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。
- 3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還

することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を超えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)

この条例は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市条例第11号)

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日松戸市条例第7号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分		観覧料(1人1回につき)	
		個人	団体(20人以上)
常設展示	一般	310円	250円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料にあっては、無料とする。		
	(1)一般	1,200円	(共通観覧料については、1,440円)
	(2)高校生・大学生	600円	(共通観覧料については、700円)

松戸市立博物館管理運営規則

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)

(趣旨)

第1条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成4年松戸市条例第28号。以下「条例」という。)第9条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後4時30分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで
- (3) 館内整理日(毎月第4金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「祝日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。)

2 前項第1号の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第4条 条例第6条第1項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第1号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第5条 条例第6条第2項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 高校生、大学生及び大学生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。
- (2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。
- (3) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人(手帳の交付を受けている者1人につき1人に限る。)が観覧するとき。
- (4) 市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。
- (5) 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)第2条に定める日に観覧するとき。
- (6) その他教育委員会が必要と認めるとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第1号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第2号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第6条 条例第6条第3項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第3号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第7条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

- (1) 国立博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設の設置者
 - (2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者
- 2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書(第4号様式)を教育委員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第5号様式)の交付を受けなければならない。
- 3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。

2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第6号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第7号様式)の交付を受けなければならない。

3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第8号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

- (1) 未公開及び未整理のもの
- (2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
- (3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
- (4) その他教育委員会が不相当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外において喫煙し、飲食し、又は火気を使用しないこと。
- (4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
- (5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。

(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

- 2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。
- 3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。
- 4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担任

事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 協議会は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。
- 5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。
- 6 協議会の庶務は、博物館において処理する。
- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月13日松戸市教育委員会規則第2号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月29日松戸市教育委員会規則第6号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・ 博物館協議会に関すること。
- ・ 資料選定評価委員会に関すること。
- ・ 市史編さんに関すること。
- ・ 市史編さん委員会に関すること。
- ・ 関係団体との連絡調整に関すること。
- ・ 資料の収集、保存及び展示に関すること。
- ・ 資料の調査及び研究に関すること。
- ・ 資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関すること。
- ・ 資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関すること。
- ・ 資料に関する相談、情報提供に関すること。
- ・ 博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関すること。
- ・ 博物館資料の寄贈、寄託に関すること。
- ・ 他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関すること。
- ・ その他博物館の専門的事項に関すること。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例

(平成26年12月25日松戸市条例第28号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、松戸市立博物館等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館における歴史に関する資料(以下「歴史資料」という。)の収集を適正かつ円滑に行うため、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調

査審議する。

(1) 歴史資料の真がんに関する事項

(2) 歴史資料の価格の適否に関する事項

(3) 歴史資料の寄贈及び寄託の受入れ又は購入の適否に関する事項

(4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の専門的知識を有する者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。
(特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例(昭和31年松戸市条例第15号)の一部を次のように改正する。
別表2に次のように加える。

松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員	日額 20,000円
---------------------	------------

※「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」については、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」(平成26年12月25日松戸市条例第28号)として条例化されたことに伴い、平成27年3月31日付で廃止となった。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによつて市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。
(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)
- 2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。
(松戸市役所部課設置条例の一部改正)
- 3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。
第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

- (1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究
- (2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究
- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

松戸市立博物館資料取扱い及び特別利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)における博物館資料(以下「資料」という。)の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、借入れ及び調査又は研究のための特別利用に関し、必要な手続を定めるものとする。

(寄贈の申込み)

第2条 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、資料の寄贈を受けるときは、寄贈の申込みをする者から資料寄贈申込書を徴するものとする。

(寄贈の承認)

第3条 教育委員会は、寄贈を受けることとなった資料を受領したときは、寄贈者に資料受領書を交付するものとする。

(寄託の申込み)

第4条 教育委員会は、資料の寄託を受けるときは、資料の寄託の申込みをする者から資料寄託申込書を徴するものとする。

(寄託資料の受託及び返還)

第5条 教育委員会は、寄託を受けることとなった資料を受領したときは、寄託者に資料受託証書を交付するものとする。

2 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の返還は、資料受託証書と引き替えに行うものとする。

(資料の一時預り)

第6条 教育委員会は、資料の寄贈又は寄託の申込みがあった場合において、資料の寄贈又は寄託の可否を決定するために必要と認めるときは、当該申込者に対し資料の一時預りを求めることができる。

2 教育委員会は、前項の場合において当該申込者が資料の一時預りを承諾したときは、資料と引きかえに資料一時預り証を交付するものとする。

(寄託期間)

第7条 寄託期間は、3年とする。

2 前項の寄託期間の起算日は、寄託を受けた日の属する年度の4月1日とする。

3 教育委員会は、寄託期間の更新をするときは、寄託者から新たに資料寄託申込書を徴するとと

もに、寄託者に新たに資料受託証書を交付するものとする。

(寄託期間内の返還)

第8条 教育委員会は、寄託期間満了前であっても、寄託者から寄託資料期間内返還申込書の提出があったときは、寄託資料の返還に応ずるものとする。

(寄託資料の一時返還)

第9条 教育委員会は、寄託資料の一時返還をするときは、寄託期間中に寄託者から寄託資料一時返還申込書を徴するものとする。

2 一時返還の期間は、60日を限度とする。ただし、特別の事由がある場合は、その期間を延長することができる。

3 一時返還の期間中における寄託資料の管理については、教育委員会は、その責を負わない。

(寄託資料の所有者変更)

第10条 教育委員会は、寄託者が寄託資料の所有権を移転する場合においては、寄託者から寄託資料所有者変更届を徴するとともに、受託証書の返還を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は寄託者の死亡に伴い相続が発生したときは、相続により当該寄託資料の所有権を取得した者から、寄託資料所有変更届を徴するものとする。

(受託証書の再交付)

第11条 教育委員会は、前条の規定により寄託資料の所有者の変更が生じた場合は、受託証書の再交付を行うものとする。

2 教育委員会は、寄託者が受託証書を亡失、滅失又は破損した場合は、寄託者にこれらの事由を記載した書面によって受託証書の再交付を申請させるものとする。

(資料の館外貸出し)

第12条 資料の館外貸出しについては、松戸市立博物館管理運営規則第7条に定めるもののほか、次条及び第14条の規定によるものとする。

(資料の館外貸出条件)

第13条 教育委員会は、資料の館外貸出しをしようとするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

(1) 貸出しを受けた者(以下「借受人」という。)は、貸出しを受けた資料(以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。

(2) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の資格を有すると認められる者が行うこと。

(3) 貸出し期間中に貸出資料の保管等のために

要する費用は、全て借受人の負担とすること。

- (4) 借受人は、貸出資料を貸出目的以外の用に供してはならない。
- (5) 貸出資料を展示する場合は、原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (6) 借受人は、貸出資料を滅失し、又はき損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。
- (7) 借受人は、資料借用申込書に記載した事項を遵守すること。
- (8) 借受人において、貸出条件に違反する行為があるとき又は特別の事由が生じたときは、貸出期間中であっても貸出を取り消す場合があること及びこの場合において生じた損害については、教育委員会はその責を負わないものであること。
- (9) 博物館職員の指示に従うこと。
- (10) その他必要と認められる条件

(借用書の徴収)

第14条 教育委員会は、貸出資料と引き替えに借受人から資料借用書を徴するものとする。

(資料の借入れ)

第15条 教育委員会は、博物館における展示、研究等のために資料の借入れをするときは、借入れする資料(以下「借受資料」という。)の受領の際、資料預り証を資料の貸主に交付するものとする。

(借受資料の返還)

第16条 借受資料の返還は、資料預り証と引き替えに行うものとする。

(特別利用の申込み)

第17条 資料について、調査、写真撮影等の特別な利用(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、資料特別利用申込書(寄託資料にあっては資料特別利用申込書及び所有者の承諾書)を教育委員会に提出して申込まなければならない。

(特別利用の承認)

第18条 教育委員会は、前条の申込みがあった場合において、資料の特別利用を承認したときは、当該申込者に資料特別利用承認書を交付するものとする。

(特別利用の条件)

第19条 教育委員会は、特別利用の承認をするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

- (1) 資料の特別利用申込書に記載した目的以外の用に供してはならないこと。

- (2) 出版物等に掲載する場合は、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。

- (3) 出版物等に掲載する場合は、博物館(寄託資料にあっては、博物館及びその所有者)に出版物等を寄贈すること。

- (4) 博物館職員の指示に従うこと。

- (5) その他必要と認める条件

(申込書等の様式)

第20条 この要綱の施行に関し必要な申込書等の様式は、別表の定めるところによる。ただし、特に必要と認める場合は、これらの様式に準じたものをもって手続をすることができる。

(委任)

第21条 この要綱の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成5年12月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行前になされた資料の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、特別利用その他の手続については、この要綱の相当規定によりなされたものとみなす。

松戸市立博物館紀要投稿規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員である者
- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者
- (5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

(審査)

第3条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程(平成23年10月1日施行。以下「査読規程」という。)にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

(投稿区分と枚数)

第4条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文70枚以内(400字詰原稿用紙換算)
 - (2) 研究ノート50枚以内(同上)
 - (3) 資料紹介30枚以内(同上)
 - (4) その他編集委員会の定めるところによる
- 2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。
- 3 投稿する原稿は、未発表のものに限る(刊行予定のものは既発表とみなす)。

(投稿形式)

第5条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めるときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4部とする。

3 前2項の原稿を投稿するときは、図1に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された以後の本文の書き直しは、校正(明らかな誤字脱字を訂正することをいう。)を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領(以下「執筆要領」という。)にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規定は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

図1(用紙規格 J I S A 5)

投稿票

氏名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数(400字詰原稿用紙換算)	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

- (1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。
- (2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長(以下「館長」という。)が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介(以下「論文等」という。)について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表2

1 掲載可(再審査不要)

- (1) このままで掲載可
- (2) 指摘箇所訂正後に可

2 修正後再審査

- (1) 書き直し後に再審査
- (2) 投稿区分の変更を必要とする

3 掲載否

- (1) 既発表部分が多い
- (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
- (3) 内容不可

4 判定不能

- (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
- (2) その他

別表1

1 形式

- (1) 表題・副題の適切さ
- (2) 章・節等の全体構成の適切さ
- (3) 原稿枚数の適切さ
- (4) 投稿区分の妥当性

2 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

3 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

4 文献

- (1) 参照文献の妥当性、引用の適切さ

5 表現

- (1) 文章の表現力、読みやすさ

職員名簿（令和4年4月1日現在）

館長（非常勤）	渡辺 尚志
次長	染野 寿郎
館長補佐	加藤 尚美
主事	齋藤 美伽
主査・学芸員	富澤 達三
主査・学芸員	藤原 哲
主任主事・学芸員	西村 広経
主事補・学芸員	林 幸太郎
再任用・学芸員	山田 尚彦
再任用・学芸員	中山 文人
再任用・学芸員	青木 俊也

人事異動

〈令和4年4月1日〉（カッコ内は転出後・転入前の所属）

転出：次長	小山 智之（市民課）
主査	中野 裕子（文化財保存活用課）
主任主事	武井 駿（学校財務課）
転入：館長補佐	加藤 尚美（生涯学習推進課）
新任：主査	藤原 哲
主事補	林 幸太郎

松戸市立博物館年報 第30号

発行日 令和5年10月17日

編集・発行 松戸市立博物館

〒270-2252

千葉県松戸市千駄堀671番地

電話番号 047-384-8181（代表）

http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

印刷 株式会社 弘文社



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM